

# DIGITAL RECORDING STUDIO **D888**

## 取扱説明書



# KORG

# 安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

**WARNING:**  
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

## 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます



- 電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート の恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。  
電源コードやプラグが破損したとき  
異物が内部に入ったとき  
製品に異常や故障が生じたとき  
修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

## 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- ・スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- ・外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強酸性のポリッシャーを使用しない。
- ・不安定な場所に置かない。  
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- ・本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。  
本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- ・LCD画面には、次のようなことを絶対にしない。  
シャープ・ペンシルのように先の鋭いもの、硬いものでLCD画面を強く押ししたりこすったりする。  
LCD画面の隅を、ペンや爪などで強くこする。  
本製品が損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

## 本製品のお取り扱いについて

本製品には、精密機器が搭載されているため、以下の事柄を十分に注意してお取り扱いいただかないと、故障の原因となります。

- ・本製品に振動、衝撃を与えないでください。  
電源がオンのときに振動や衝撃が加わると、ハードディスク上のデータが失われることがあります。また、ハードディスクの損傷、または製品内部を損傷するなどの、故障の原因になります。特に、ハードディスクがアクセス中のときは振動、衝撃に非常に弱いので、十分に注意してください。
- ・冬季の屋外や夏季の直射日光に当たる場所のように、極端に温度の低いまたは高い場所で、使用や保管をしないでください。また、温度差が激しい場所へ、本製品を移動することは避けてください。  
温度差が生じた場合、ハードディスク・ドライブや製品内部に、水滴がつくことがあります。そのまま使用すると故障の原因となりますので、数時間放置してから使用を開始してください。
- ・極端に湿度の高い場所では使用、保管しないでください。
- ・ほこりや煙が多い場所では使用、保管しないでください。

### 吸排気口について

- ・吸排気口をふさがないでください。  
本体左右の孔は吸排気口です。排熱が不完全になると、動作が不安定になったり、電源がシャットダウンする恐れがあります。本製品を設置する際には、本体側面を壁などから10cm以上離してください。また、吸排気口の近くに、通風の妨げになるものを置かないでください。

### 内蔵ハードディスクの使用上の注意事項

- ・電源のオンとオフを、頻繁に繰り返さないでください。  
電源をオンにすると、ハードディスク・ドライブへのアクセスが開始されます。アクセス中に電源をオフにすると、ハードディスク上のデータが失われたり、ハードディスク・ドライブや製品内部を損傷するなどの故障の原因になります。  
電源をオフにした後、再度オンにする場合は、10秒ほど待って電源を入れてください。
- ・操作上のミス、停電、あるいは事故的な電源供給停止によってハードディスクが破損した場合は、保証期間内であっても有償交換になることがあります。

## LCDディスプレイについて

本製品のLCDディスプレイは、非常に高い技術で作られた精密機器であり、品質には十分に注意を払っておりますが、次の内容については、LCDディスプレイの特性から生じる状態であり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・画面の一部に黒点(点灯しない点)や輝点(常に点灯する点)がある。
- ・表示内容によっては、画面の明るさにムラが生じる。
- ・表示内容によっては、横縞の陰が見える。
- ・表示内容によっては、ちらつきやモアレが生じる。

## データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 著作権について

本製品は、あなたが著作権保有者であるか、著作権の保有者から複製許可を得ている素材を使用することを目的としています。あなたが著作権を所有していない、または著作権保有者から複製許可を得ていない場合は、著作権法の侵害となり、損害賠償を含む保証義務を負うことがあります。あなた自身の権利について不明確なときは、法律の専門家に相談してください。

## 本書の記述について

### パネル上のフェーダー、ノブ、キーの表記

本誌の中でフェーダー、ノブ、キーと表記するものはパネル上のものです。名称はパネル上での文字を太字で表します。  
例: MASTERフェーダー、TRIMノブ、REC/PLAYキー

### LCD画面中の表記

本誌の中で“太字”で表記するものは、LCD画面に表示されるパラメーターや数値などです。  
例: “Repeat”、“T1”、“60”

### 操作 1)、2)、3)、...

操作の手順を表します。

### ( p. )

参照する本書のページを表します。



これらのマークは、使用上の注意、アドバイスを表します。

### LCD画面の表示内容について

取扱説明書に記載されている各種のパラメーターの数値などは表示の一例ですので、本体のLCD画面の表示と必ずしも一致しない場合があります。

- \* MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- \* 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

# 目次

<b>はじめに</b> -----	<b>6</b>	<b>オペレーション</b> -----	<b>20</b>
付属品について -----	6	レベル・メーター -----	20
はじめてお使いになる前に -----	6	1. 表示内容と設定 -----	20
電源オン、オフ -----	6	1-1. ピーク・ホールドの設定 -----	20
接続例 -----	7	1-2. レベル・メーターの位置 -----	20
おもな特長 -----	8	1-3. カウンター表示の切り替え -----	20
各部の名称 -----	9	1-4. その他 -----	20
トップ・パネル -----	9	<b>ソング、ロケーション</b> -----	<b>21</b>
リア・パネル -----	12	1. ソング -----	21
画面と操作 -----	13	1-1. 新しいソングを作る -----	21
<b>基本的な使い方</b> -----	<b>14</b>	1-2. ソングを選ぶ -----	21
1: 準備とデモ・ソング -----	14	1-3. ソングの名前を変更する -----	21
1-1. 確認と接続 -----	14	1-4. ソングのコントロール -----	21
モニター機器の接続 -----	14	2. ロケーション(位置) -----	22
1-2. 電源オン -----	14	2-1. ロケーションを移動する -----	22
1-3. デモ・ソングを聴く -----	15	カウンターでの移動 -----	22
デモ・ソングを最初から聴き直すときは	15	FF、REWキーによる移動 -----	22
2: 録音 -----	15	ソングの先頭/終了位置への移動 -----	22
2-1. 新しいソングを作る -----	15	マークをつけて移動 -----	22
2-2. 入力機器を接続する -----	16	<b>ミキサー</b> -----	<b>24</b>
2-3. 録音を開始する -----	16	1. ミキサーへの音声入力 -----	24
3: 再生 -----	16	1-1. 入力機器別の接続方法 -----	24
3-1. 再生音を聞く -----	16	キーボード/ライン・アウト機器 -----	24
3-2. 再生音を加工する -----	17	ギター/ベース -----	24
4: オーバー・ダビング -----	17	マイク -----	24
4-1. 入力機器を接続する -----	17	1-2. 入力レベルの調整 -----	24
4-2. 録音を開始する -----	17	1-3. モニター・レベルの調整 -----	24
4-3. ソングの確認 -----	17	2. ミキサーからの音声出力 -----	24
5: ミックス・ダウンとマスタリング -----	18	2-1. MST/MONの場合 -----	24
5-1. 各トラックの音質、音量を調整する -----	18	2-2. INDIVIDUALの場合 -----	25
5-2. 録音を開始する -----	18	3. ミキサーの調整 -----	25
5-3. ソングの確認 -----	18	3-1. 音量の調整 -----	25
5-4. ソングの保存について -----	19	各チャンネルの音量レベルを調整する ---	25
6: 構成 -----	19	全体の音量レベルの調整 -----	25
		3-2. 定位(パン)の調整 -----	25
		3-3. EQ(イコライザー) -----	25
		3-4. チャンネルのミュート(消音) -----	25
		4. メトロノーム -----	25
		<b>録音(基本)</b> -----	<b>26</b>
		1. バーチャル・トラック -----	26
		1-1. バーチャル・トラックの選択 -----	26
		1-2. トラックの表示 -----	26

2. 録音の種類	26
2-1. チャンネル・トラック録音	27
2-2. オーバー・ダビング録音	27
2-3. バウンス録音	27
2-4. マスター・トラック録音	28
録音( 応用 )	29
1. 録音の修正	29
1-1. 一部分を録音し直す (パンチ・イン・アウト)	29
マニュアル・パンチ・イン・アウト	29
オート・パンチ・イン・アウト	29
1-2. リピート録音	30
2. 録音関連機能	31
2-1. リハーサル機能	31
2-2. オート・インプット	31
録音/再生の自動切り替え	31
オート・インプットのオン、オフ	31
再生	32
1. 再生の種類	32
1-1. チャンネル・トラックの再生	32
1-2. マスター・トラックの再生	32
1-3. リピート再生	32
エフェクト	33
1. エフェクトを使う	33
2. プログラムとパラメーター	33
3. エフェクト設定の保存	34
エディット	35
1. ソング・エディット	35
1-1. ソングの再読込	35
1-2. ソングの削除	35
1-3. ソングのコピー	35
1-4. ソングを保存する	36
1-5. ソングを保護する( プロテクト )	36
2. トラック・エディット	37
2-1. トラックのコピー( Copy )	37
2-2. トラックの消去( Erase )	38
2-3. トラックの交換( Swap )	38
2-4. マスター・トラック・ ファイルの選択( Master )	39
2-5. チャンネル・トラック・ ファイルの選択( VTrack )	39
2-6. トラック・データの削除( Delete )	40
その他	40
1. コントラスト調整	40
2. フット・スイッチを使う	40
3. アンドウ、リドゥ	41

4. ドライブのフォーマット	41
5. コンピューターとの連携	41
5-1. USBモード	42
5-2. 使用可能なファイル	42
6. MIDIでの同期	43
6-1. MIDIの接続	43
6-2. 本機で扱うMIDIメッセージ	43
6-3. MIDI同期設定	43
7. システム・バージョン・アップ	43
7-1. システム・ファイルのダウンロード	43
7-2. バージョン・アップ手順	43

## 付録 ----- 44

故障とお思いになる前に	44
電源が入らない	44
ディスプレイに何も表示されない	44
ディスプレイに縦線が入っている	44
音が出ない	44
録音できない	44
入力音または 録音した音にノイズやひずみが多い	44
エフェクトがかからない	44
メトロノーム	44
キーを押しても機能しない	45
MIDI	45
音声ファイル	45
USB	45
各種のメッセージ	45
確認メッセージ	46
重大なエラー・メッセージ	46
ファイル詳細	47
本機ハードディスクの構成	47
本機で使用できる WAVファイルについて	47
ソング・ファイル詳細	48
ソング共通で記憶している設定	48
ソングごとに記憶している設定	48
ブロック・ダイアグラム	48
デモ・ソング	48
仕様	49
索引	50
MIDIインプリメンテーションチャート	51

# はじめに

このたびは、コルグ・デジタル・レコーディング・スタジオ D888 をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本機を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保存してください。

## 付属品について

下記の付属品が揃っていることを確認してください。

- ・取扱説明書(本書)
- ・電源コード

## はじめてお使いになる前に

### 重要

ここでは、本機を使用するにあたって、必ず守っていただきたいことを説明します。

### 電源オン、オフ

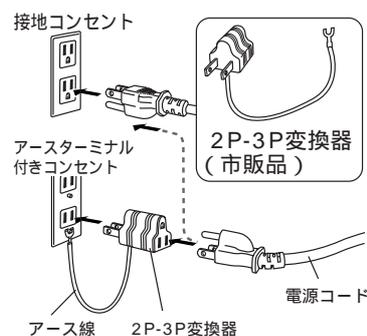
本機はハードディスクを搭載するコンピューターと同等の精密機器です。電源のオン、オフには、これから説明する手順を必ず守って行ってください。付属の電源コードのプラグには、アース端子がついています。感電と機器の損傷を防ぐためにアース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

コンセントが接地コンセントの場合

直接プラグをコンセントに差し込んでください。

コンセントがアースターミナル付きコンセントの場合

2P-3P変換器(市販品)をプラグに付け、アース線を接続した後にコンセントに差し込んでください。



⚠ アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース端子を先に接続してからコンセントにプラグを差し込んでください。コンセントを外す場合は、必ずプラグを先に抜いてからアースを外してください。接続方法がわからないときは、コルグお客様相談窓口にご相談ください。

⚠ 電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用した場合、故障などの原因となります。

⚠ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

⚠ 電源を入れる前に、電源コードのプラグが本体やコンセントにしっかりと取り付けられていることを確認してください。

### 電源オン

1) 本機のモニターLEVELノブを“0”まで下げます。外部接続機器のボリュームを最小にします。

2) 本機へ音声を送るキーボードなど、外部入力機器の電源をオンにします。

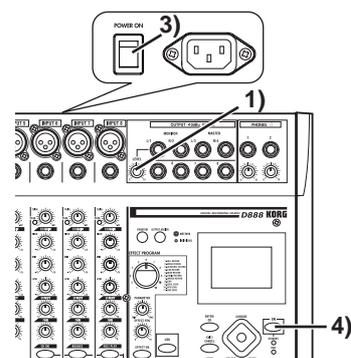
3) 本機のリア・パネルの主電源スイッチ(POWER ON)をオンにします。STANDBY LEDが点灯します。本機が「スタンバイ」状態になります。

⚠ 主電源を入れてからSTANDBY LEDが点灯するまで多少時間がかかります。

4) 本機のトップ・パネルのONキーを押して、電源オンにします。

ディスプレイにオープニング画面が表示され、その後Level Meter画面が表示されます。

⚠ USBケーブルでコンピューターと接続したまま電源オンにすると、USB画面が表示されUSBモード( p.42 )に入ります。



次回電源をオンにするとソングには、前回電源をオフにする直前のソングが選ばれます。

5) 本機から音声を送るモニター機器など、外部出力機器の電源をオンにします。

⚠ 本機の使用中に誤って電源が切れると、本体や内蔵ハードディスクなどが損傷を受ける恐れがあります。

## 電源オフ

1) 本機のモニターLEVELノブを“0”まで下げます。外部接続機器のボリュームを最小にします。

2) 本機から音声を送るモニター機器などの外部出力機器の電源をオフにします。

3) 本機のONキーを長め(2~3秒程度)に押し、終了確認の画面を表示します。ENTER/OKキーを押すと、自動的にソングを保存した後、スタンバイ状態になります。この一連の動作をシャットダウンするといいます。EXIT/CANCELキーを押した場合は、元の画面に戻ります。

4) 本機のリア・パネルの主電源スイッチ(POWER ON)を押して電源をオフにします。

5) キーボードなどの外部入力機器の電源をオフにします。

⚠ 電源をオフにするときには、必ずシャットダウンを行ってください。シャットダウンが完全に終了するまでは、絶対に主電源をオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。

⚠ シャットダウンが終了する前に主電源を切ったり、電源コードを抜いたりした場合、データやユーザー設定が失われたり、ハードディスクを損傷するなど故障の原因となります。

⚠ 本機に録音した音声、ミキサーやエフェクトの設定などはソングの選択時、およびシャットダウン時に自動的に保存されます。

⚠ ソングの再生や録音など、作業がすべて終了したら、シャットダウンをしてください。また、長時間使用しない場合は、必ず主電源をオフにして電源を完全に切ってください。

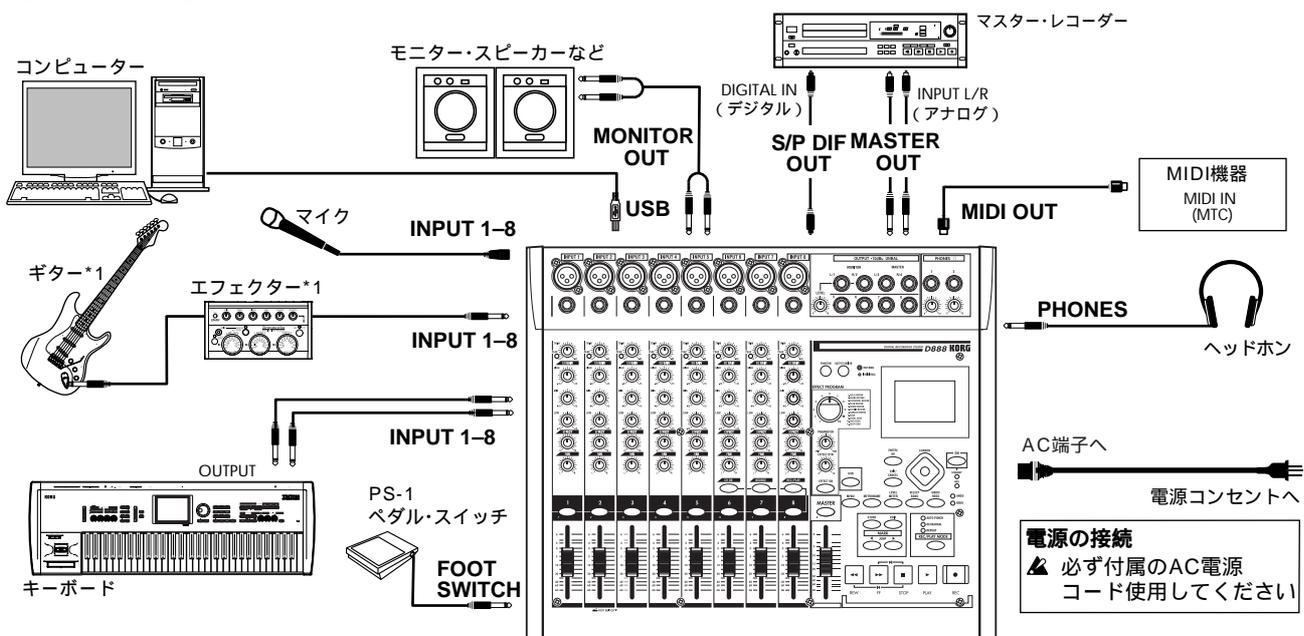
D888の  
オープニング画面



Shut Down:  
Are you sure?  
OK or CANCEL

## 接続例

本機を使って接続するための基本的な接続例です。必要に応じて機器などを置き換えて接続してください。



\*1 ピックアップがアクティブ・タイプのギターやベースなどは直接入力できますが、パッシブ・タイプ(プリアンプを内蔵していない)の場合は、インピーダンス・マッチングの関係で適正な入力音量、音質が得られません。プリアンプやエフェクターを通して接続してください。

はじめに

はじめてお使いになる前に

おもな特長

各部の名称

画面と操作

# おもな特長

## 8トラック・デジタル・マルチトラック・レコーダー

本機は、内部処理40bit、録音再生16bit、サンプリング周波数44.1kHzの非圧縮録音方式で、最大同時録音数8トラックの高品位サウンドを実現しています。

各トラックには8つのバーチャル・トラックを装備しています。

また、マスター・トラック録音をする度にマスター・トラック・ファイル(ステレオWAV)が作成されるので、何度でも納得するまでマスタリングを繰り返し、後で確認選択することができます。

## TRSフォーンまたは+48Vファンタム電源付きXLRを選べる8つのアナログ入力端子

本機のすべてのアナログ入力は、フル・デジタル処理による音質を損なわないための、高性能バランスド・ヘッド・アンプを採用しています。

標準フォーン入力端子は、すべてTRSジャック型バランス・タイプを装備しています。アンバランス入力にも対応しており、さまざまなサウンド・ソースが直接接続可能です。

また、8つのXLR入力端子は+48Vファンタム電源付きなので、手軽にコンデンサー形マイクを使うことができます。

## アナログ・ライクな操作系

各ミキサー・チャンネルには、入力端子、TRIMノブ、EQ GAINノブ、EFFECTノブ、PANノブ、チャンネル・キー、チャンネル・フェーダーが一直線に並んでおり、直感的に迅速な操作することができます。

## エフェクト

内部処理40bitのエフェクトは、11種類のエフェクト・プログラムを使用することができます。このプログラムのパラメーターをエディットし、その音色をソングごとに保存することができます。

## 編集機能

デジタル・レコーダーならではの高品位なサウンドを損なうことなく編集が可能です。さらに、パンチ・イン/アウト機能、録音や編集を行った前の状態に戻すアンドゥ、それを取り消すリドゥにより、録音や編集にさかのぼることも可能です。またコピーやスワップなどのトラック・エディット機能も装備しています。

マーク・ポイントも1ソングにつき100ヶ所の登録ができ、簡単にソングの編集したい時刻へ移動ができます。

## 内蔵ハードディスク・ドライブ

大容量ハードディスク・ドライブを搭載し、1Gあたり約3時間(1トラック録音時)録音することができます。

## USB端子搭載でコンピューターとのスムーズなデータのやりとりが可能

USB端子を使って、コンピューターと簡単にデータのやりとりをすることができます。

## リハーサル機能

ミキサー動作、設定は録音時と全く同じにしながら、ハードディスクを消費しない(実際には録音されない状態)で予行練習ができます。

## 自由度の高い出力切り替え

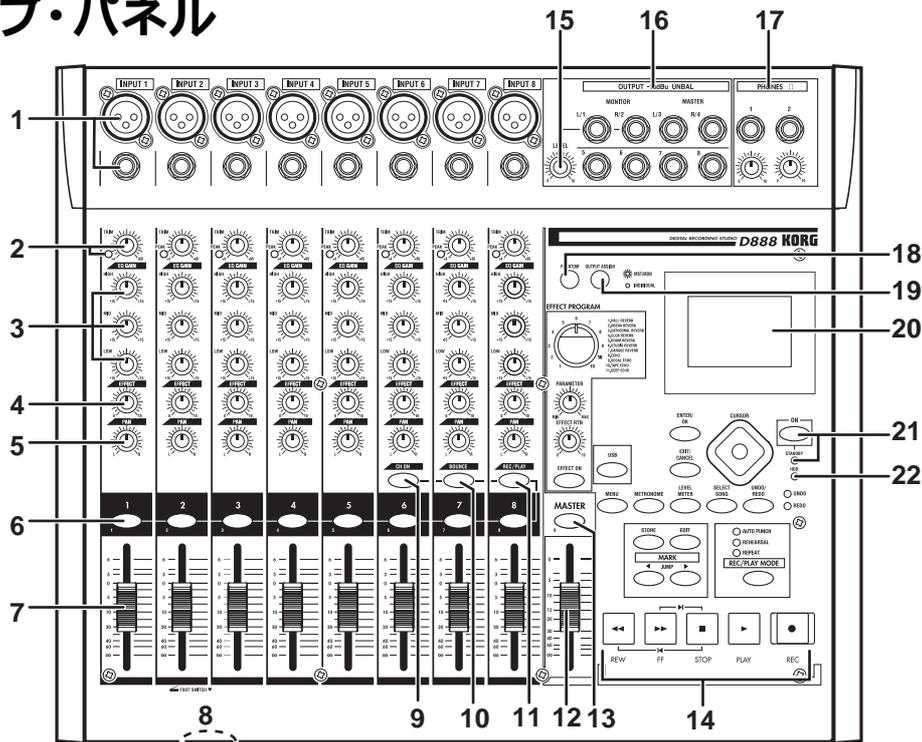
通常のマスター、モニター出力と同時に、チャンネル5~8を独立して出力できます。また、インディビジュアル・アウトに切り替えることで、チャンネル1~8を独立して出力することもできます。

## メトロノーム

テンポ確認に便利なメトロノームをマスター+モニター出力、モニター出力と切り替えて使用できます。

# 各部の名称

## トップ・パネル



### 1 INPUT 1、INPUT 2...INPUT 8 端子

マイク/ライン( キーボードなど )を入力します。

6.3mmTRSフォーン端子が使用できるバランス型入力です。アンバランス型フォーン・プラグも接続できます。

**▲** INPUT 1 ~ 8は、TRSフォーン端子とXLR端子のどちらかを使うことができますが、TRSフォーン端子にプラグを接続しているときは、そのINPUTのXLR端子を使うことはできません。

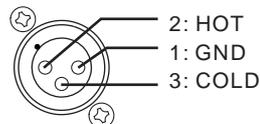
コンデンサ・マイクでファンタム電源を使う場合には、XLR端子で接続してください。XLR端子にはコンデンサ・マイクを使用するために、+48Vのファンタム電源が搭載されています。ファンタム電源は、18 PHANTOMキー( p.11 )でオンにします。

TRSフォーン・プラグ

XLR端子

バランス型

アンバランス型



**▲** PHANTOMキーをオンにした状態で、コンデンサマイクを抜き差しすると、機器を破損する恐れがあります。必ずファンタム電源スイッチをオフにして、コンデンサ・マイクの接続を行ってください。

**▲** ファンタム電源を使用しないときは、PHANTOMキーを必ずオフにしてください。オンのままXLR端子にファンタム電源を使用しない機器を接続した場合は、破損する恐れがあります。

### 2 TRIM ノブ、PEAK LED

各チャンネルの入力レベルを調整します。接続した楽器等の入力レベルが、最も大きくなったときにPEAK LEDが点灯しないように入力機器に合わせてTRIMノブで調整します。

**▲** 何も接続していない入力のTRIMノブを上げたままにすると、ハムやノイズの原因になります。

### 3 EQ GAIN ノブ(HIGH、MID、LOW)

各チャンネルのEQゲインを調整します。中心周波数は、10kHz、2.5kHz、100Hzで可変幅は±15dBになります。

### 4 EFFECT ノブ

各チャンネルのエフェクトをかけるセンド量を調整します。

5 PANノブ

各チャンネルの定位を調整します。

6 チャンネル・キー( 1 - 8 )

各チャンネルの状態を切り替えます。

CH ONキーがオン:チャンネルの有効、無効( ミュート )を切り替えます。チャンネルが有効なキーが点灯( オレンジ色 )します。

BOUNCEキーがオン:バウンス録音の状態を切り替えます。バウンス先( 録音チャンネル )は赤色点滅に、バウンス元( 再生チャンネル )は緑色点灯にします。

REC/PLAYキーがオン:チャンネルの録音、再生を切り替えます。( 録音時赤色、再生時緑色点灯 )

**note** 数字入力時の1~8キーとして使うことができます( p.21、35 )。

7 チャンネル・フェーダー( 1 - 8 )

各チャンネルの録音/再生時のマスター・バスに送る音量を設定します。

8 FOOT SWITCH端子

フィット・スイッチ( 別売オプションKORG PS-1ペダル・スイッチ推奨 )を接続するとマニュアル・パンチ録音のときに、パンチ・インとパンチ・アウトを切り替えることができます。( p.29、40 )。

9 CH ONキー

このキーをオン( オレンジ色点灯 )にして、チャンネル・キーで各チャンネルの有効、無効を切り替えます。ミュート( 消音 )機能として使用できます。

10 BOUNCEキー( 0 )

このキーをオン( キー点灯 )にして、チャンネル・キーでバウンス先( 録音 )やバウンス元( 再生 )を決定します。

**note** 数字入力時の0キーとして使うことができます( p.21、35 )。

11 REC/PLAYキー

このキーをオン( キー点灯 )にして、チャンネル・キーで各チャンネルのトラック・レコーダーの録音/再生を切り替えます。各チャンネル・キーを押すたびに、トラックの設定が切り替わります。なお、マスター・トラックのチャンネル・キーが再生のときは自動的に全てのトラックがミュート( 消音 )、録音のときは自動的に全てのトラックが再生になります。

12 MASTERフェーダー

全体の音量を設定します。マスター・トラックの録音時は、録音レベルを設定します。

**note** 通常、録音時はMASTERフェーダーを0dBに固定し、各チャンネルのフェーダーを調整して出力が歪まないように設定します。

13 MASTERキー( 9 )

キーを押すたび、録音( 赤色点灯 )/再生( 緑色点灯 )/オフ( 消灯 )と切り替わります。

**note** 数字入力時の9キーとして使うことができます( p.21、35 )。

14 トランス・ポート・キー

RECキー、PLAYキー、STOPキー、REWキー、FFキーで再生、録音などのレコーダー操作をします( p.21 )。

15 モニターLEVELノブ

19 OUTPUT ASSIGNキーの設定が“ MST/MON ”のときはMONITOR L、R端子から出力する音量レベルを、“ INDIVIDUAL ”のときは、ミキサー・チャンネル1、2のOUTPUT端子から出力される音量レベルを設定します。

16 OUTPUT端子

外部機器を接続します。19 OUTPUT ASSIGNキーの設定により出力する音声が異なります。

6.3mmフォーン端子が使用できるアンバランス出力です。

MST/MON

MASTER L、R、MONITOR L、R、ミキサー・チャンネル5、6、7、8の音声出力になります。

INDIVIDUAL

ミキサー・チャンネル1、2、3、4、5、6、7、8の音声出力になります。

#### 17 PHONES、レベル・ノブ

ヘッドホンを接続し、それぞれのレベル・ノブでヘッドホンの音量レベルを設定します。

6.3mmステレオ・フォーン端子で、MONITOR端子と同じ音声を出力します。

#### 18 PHANTOMキー

INPUT 1～8のXLR端子には、コンデンサ・マイクを使用するために、+48Vのファンタム電源が搭載されています。キーを押すたびにオン(キー点灯)、オフ(キー消灯)を繰り返します。

ファンタム電源はINPUT 1～8のXLR端子すべてに供給されます。コンデンサ・マイクとダイナミック・マイクを混在して使用するときは、コンデンサ・マイクをXLR端子に、ダイナミック・マイクはTRSフォーン端子に接続してください。

⚠ TRSフォーン・プラグを接続しているINPUTには、ファンタム電源は供給されません。

⚠ PHANTOMキーをオンにした状態で、コンデンサマイクを抜き差しすると、機器を破損する恐れがありますので、必ずファンタム電源スイッチをオフの状態でのコンデンサ・マイクの接続を行ってください。

⚠ XLR端子には、PHANTOMキーをオンにした状態で、絶対にコンデンサ・マイク以外の機器を接続しないでください。機器を破損するおそれがあります。

#### 19 OUTPUT ASSIGNキー

16 OUTPUT端子から出力する音声を設定します。キーを押すたびにMST/MON(キー点灯)、INDIVIDUAL(キー消灯)が切り替わります( p.24 )。

#### 20 ディスプレイ

ソング名、録音/再生時の音量情報(レベル・メーター)や時間情報(ロケート)、各種パラメーターなどが表示されます。

#### 21 ONキー、STANDBY LED

本機の電源をオン、オフします。STANDBY LEDが点灯しているときにONキーを押すと、電源をオンにすることができます。

本機動作時、ONキーを長めに押し続けることで、パワー・オフ画面が表示されます。

#### 22 HDD LED

録音、再生、編集時などハードディスクにアクセスしたときに点灯します。

⚠ HDD LEDが点灯、点滅しているときは絶対に本機の電源を切ったり、振動、衝撃を与えないでください。

#### 23 EFFECTセレクトター

エフェクトで使用するプログラムを選択します。

#### 24 PARAMETERノブ

エフェクトで使用するプログラムのパラメーターの値を調整します。

#### 25 EFFECT RTNノブ

エフェクトのかかり具合を調整します。

#### 26 EFFECT ONキー

押すたびにエフェクトのオン(キー点灯)、オフ(キー消灯)を切り替えます。

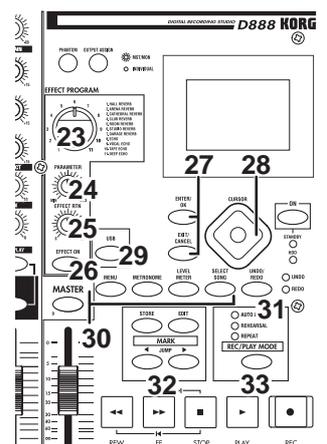
#### 27 ENTER/OKキー、EXIT/CANCELキー

確定や実行、1つ先の画面に進むときなどはENTER/OKキーを押します。中止や取り消し、1つ前の画面に戻るときなどはEXIT/CANCELキーを押します。

また、画面に表示されるメッセージに対して対応するときにもキーを押します。

#### 28 カーソル・キー

パラメーターの選択や画面の移動、値の変更などディスプレイ内の操作に使用します。



## 29 USBキー

USBモードに入るときに押します。

## 30 MENUキー、METORONOMEキー、LEVEL METERキー、SELECT SONGキー

それぞれのモード・キーを押すと、エディット・メニュー、メトロノーム設定、レベル・メーター、ソング選択のモードに入り画面が表示されます。

## 31 UNDO/REDOキー、LED

アンドゥ、リドゥ・データがあるときLEDが点灯します。キーを押すと実行します。

## 32 STOREキー、EDITキー、◀JUMPキー、JUMP▶キー

ソングのロケーションをマークとして登録するときにSTOREキーを、その登録したマーク一覧を表示して呼び出したり、削除などのときにEDITキーを押して編集画面に移動します。また◀JUMPキー、JUMP▶キーを押すと、現在のロケーションの前後のマークに登録されているロケーションを順に呼び出すことができます。

## 33 REC/PLAY MODEキー、AUTO PUNCH、REHEARSAL、REPEAT LED

各種録音/再生モードを設定します。また、オート・パンチ録音がオンの設定、リハーサルがオンの設定、リピート再生がオンの設定のときLEDが点灯します。

# リア・パネル

## 1 USB端子

USBケーブルを使用してコンピュータと接続します。

▲ 本機に外部ハードディスク、CD-R/RWDドライブ等のUSB周辺機器を接続することはできません。

▲ USBケーブルでコンピュータと接続したまま電源オンにすると、オープニング画面のあと直ぐにUSB画面が表示され、USBモード( p.42 )に入ります。

## 2 MIDI OUT端子

MIDIデータを出力します。接続した外部MIDI機器を本機でコントロールする場合などに使用します( p.43 )。

## 3 S/P DIF OUT端子

オプティカル(光)型のS/P DIFフォーマット( IEC60958、EIAJ CP-1201 )のデジタル出力端子(ステレオ)です。

CD-R/RW、MDなどの光デジタル入力端子と光ケーブルで接続します。

MASTER L/R端子と同じ音声を、44.1kHz/16bit数のデジタル信号で出力します。

## 4 主電源スイッチ( POWER ON )

主電源をオン、オフします。

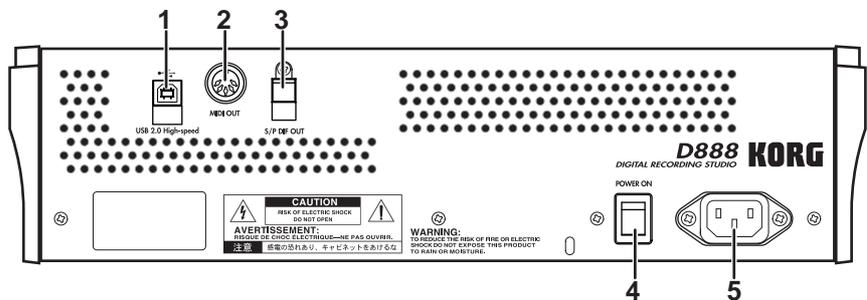
主電源スイッチをオンにすると、本機はスタンバイ状態になります。

スタンバイ状態のときにONキーを押すことにより、本機の電源をオンにすることができます。また、本機動作時、ONキーでシャットダウンしてから主電源をオフにすることにより、完全に電源を切ることができます。

▲ 電源をオフにするときには、必ず先にONキーを押しシャットダウンを行ってください。シャットダウンが完全に終了するまでは、絶対に主電源スイッチをオフにしたり、電源ケーブルを抜いたりしないでください。ソング・データやユーザー設定が失われたり、ハードディスクを損傷するなど故障の原因となります。

## 5 AC端子

付属の電源コードを接続します。



# 画面と操作

## 1. モード画面の選択

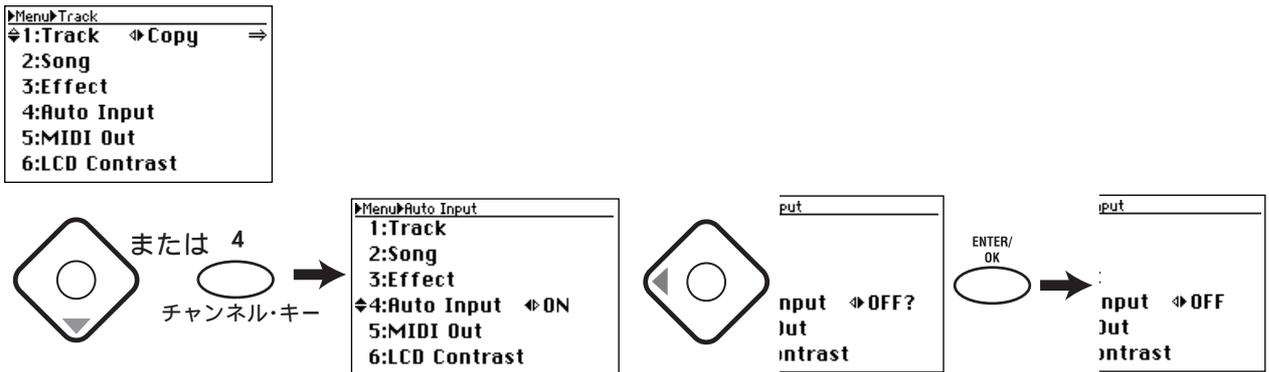
モード・キー( MENU、METRONOME、LEVEL METERなど)を押すとディスプレイにそのモードの画面を表示します。



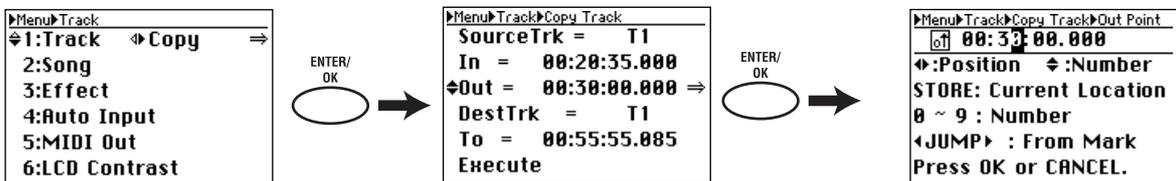
## 2. パラメーターの選択、値の設定

エディットできる画面では、主にカーソル・キーとENTER/OK、EXIT/CANCELキーでパラメーターの選択、値の設定などを行います。ただし、画面やパラメーターによってはチャンネル・キーとBOUNCE、MASTERキーを使った数字の入力を行うことができます。なお、画面の◀はカーソル・キー上下で、▶はカーソル・キー左右で選択、設定ができることを表します。また、画面の⇒はENTER/OKキーを押すとさらに先の画面に進みます。最終的に設定を確定するときはENTER/OKキーを押して、1つ前の画面に戻りますが、確定前にEXIT/CANCELキーを押すと元の設定のまま1つ前の画面に戻ります。

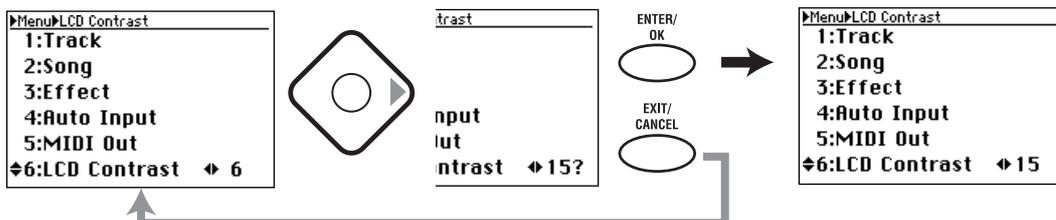
Auto Inputの設定を“ On ”から“ Off ”に変える



画面に“ ⇒ ”が表示されている場合



変更を確定( ENTER/OK )した場合と中止( EXIT/CANCEL ) 場合



# 基本的な使い方

## 1: 準備とデモ・ソング

録音するためにモニター・スピーカー、またはヘッドホンを接続して、電源を入れます。

自分で録音する前に、本機で録音されたデモ・ソングを聴いてみましょう。

## 2: 録音

キーボードやマイク、ギターなどを接続し、チャンネル・トラックに演奏を録音します。

## 3: 再生

録音した演奏を再生し、EQやエフェクトをかけてみましょう。

## 4: オーバー・ダビング

2:で録音した演奏を聞きながら、他のチャンネル・トラックにも演奏を録音します。

## 5: ミックス・ダウンとマスタリング

各トラックの演奏にエフェクトやEQなどをかけて全体のバランスを整えます。全体のレベルやパンを調整し、マスター・トラックに録音します。

## 6: 構成

本機のレコーダーの音声の流れを簡単なブロック図でご覧ください。

# 1: 準備とデモ・ソング

## 1-1. 確認と接続

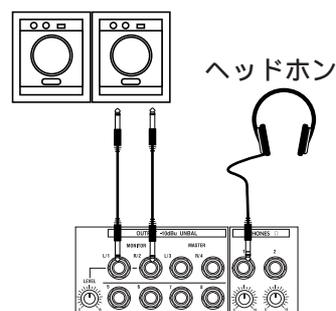
### モニター機器の接続

1) MONITOR L、R端子にモニター・スピーカーを接続するか、PHONES端子にヘッドホンを接続します。

2) モニターLEVELノブを“0”にしてください。ヘッドホンを接続している場合にはPHONEレベル・ノブを左に回しきってください。

▲ OUTPUT ASSIGNキーが消灯している(INDIVIDUAL)ときは、キーを押して点灯(MST/MON)に切り替えてください。

モニター・スピーカーなど



ヘッドホン

## 1-2. 電源オン

付属のACコードをつなぎ、電源をオンにします。

6ページ、「電源オン」の手順で電源をオンにします。

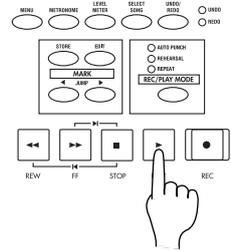
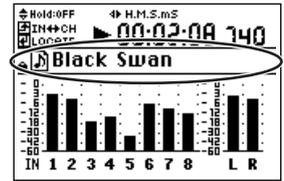
▲ コンセントはできるだけ独立したものをお使いください。何らかの理由でブレーカーが落ちると、保存前のデータが消失したり、搭載しているハードディスクに損傷を与える場合があります。

OUTPUT ASSIGNキー

## 1-3. デモ・ソングを聴く

工場出荷時のD888には、本機を使って録音したデモ・ソングを収録しています。ここで、このソングを聴いてみましょう。

- 1) ディスプレイにデモ・ソングが表示されていることを確認してください。  
デモ・ソング以外が表示されているときは、21ページの「1-2. ソングを選ぶ」を参照して、デモ・ソングを選んでください。
- 2) チャンネル・フェーダーとMasterフェーダーを“0”に合わせます。
- 3) PLAYキーを押して、デモ・ソングの再生を開始します。
- 4) モニターLEVELノブをゆっくり右に回し、再生音量を調整します。  
ヘッドホンを接続しているときは、PHONESレベル・ノブをゆっくり右に回して調整します。
- 5) デモ・ソングが終了したら、STOPキーを押して、再生を停止します。



## デモ・ソングを最初から聴き直すときは

- 1) STOPキーを押しながらREWキーを押すと、デモ・ソングの先頭に戻ります。
- 2) PLAYキーを押すと、デモ・ソングの最初から再生を開始します。

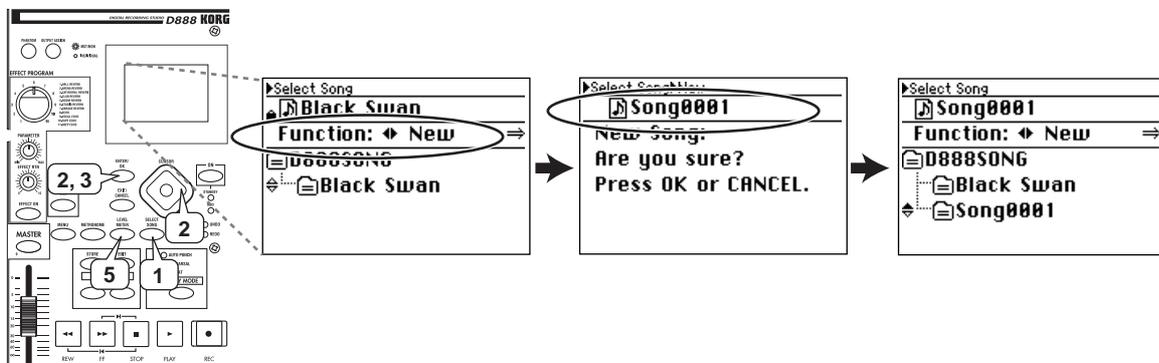
# 2: 録音

今回はキーボードのように2チャンネル(ステレオ)出力の機器を接続して録音してみます。

## 2-1. 新しいソングを作る

録音するための新規ソングを作成します。

- 1) SELECT SONGキーを押し、Select Song画面を表示します。
- 2) Newをカーソル・キー左右で選び、ENTER/OKキーを押します。  
画面には“New Song:Are you sure?”の表示が出ます。
- 3) ENTER/OKキーを押すと、新規ソングの作成を開始します。
- 4) 終了すると“Song\* ”という名前のソングが追加されます(\* は ...1から始まる一連の番号)。

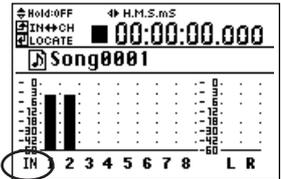
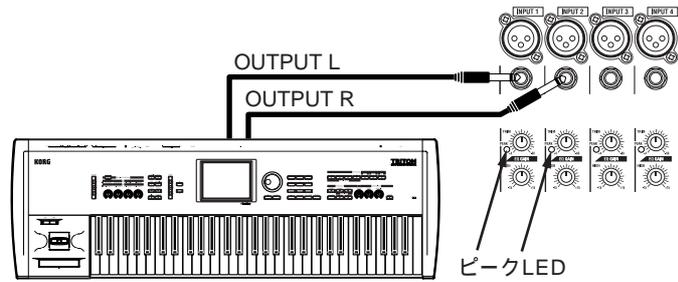


- 5) LEVEL METERキーを押し、元の画面( Level Meter)を表示します。

## 2-2. 入力機器を接続する

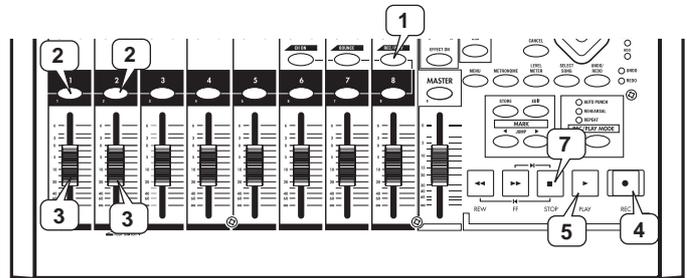
1、2チャンネルにキーボードの出力L、Rを接続します。

- 1) INPUT 1 にキーボードの出力LをINPUT 2に出力Rを接続します。
- 2) 一番強く弾いたときに、PEAK LEDが点灯するようにTRIMノブを回し調整します。Level Meter画面で、EXIT/CANCELキーを何度か押し、レベル・メーターをインプット表示 (IN) に切り替えて入力レベル確認します。



## 2-3. 録音を開始する

- 1) REC/PLAYキーを押し(キー点灯)ます。
- 2)トラック1と2のチャンネル・キーを何度か押しして録音(赤色点灯)にします。
- 3)トラック1と2のフェーダーを徐々に上げてモニター・スピーカー(またはヘッドホン)のモニター音量を確認します。
- 4) RECキーを押して録音待機状態にします(キー点滅)。
- 5) PLAYキーを押して、録音を開始します(REC、PLAYキー点灯)。
- 6) 演奏を開始してください。
- 7) 演奏が終了したら、STOPキーを押して、録音を停止します(キー消灯)。



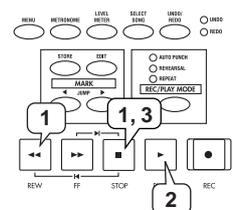
▲ 本機の録音レベルはTRIMノブだけで調整します。チャンネル・フェーダーは、マスター、モニターへの音声レベルを調整します。

▲ 録音後、アンドゥ・データを作成するため、画面に“Working...”が表示されます。この作業はソングの長さが長いほど、作業終了までの時間がかかります。

# 3: 再生

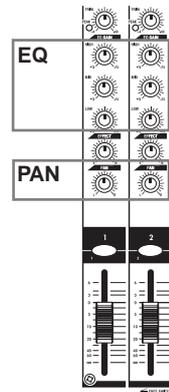
## 3-1. 再生音を聞く

- 1) 録音を開始した位置に移動します。  
STOPキーを押しながら、REWキーを押すとソングの先頭に戻ります( p.22「2. ロケーション(位置)」)。
- 2) PLAYキーを押して、再生を開始します(キー点灯)。  
**note** 録音/再生の自動切り替えの設定がオン(工場出荷時)になっているので、トラックの設定を録音後に再生にしなくても、自動的に再生になります( p.31「2-2. オート・インプット」)。
- 3) STOPキーを押して、再生を停止します(PLAYキー消灯)。



## 3-2. 再生音を加工する

- ・チャンネル1と2の3つのEQ GAINノブを動かすと音質が変化します。
- ・チャンネル1と2のPANノブを左右に回すと定位を調整することができます。



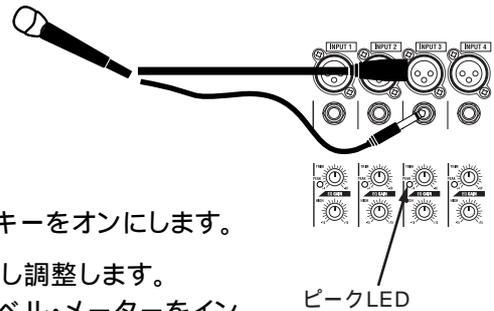
# 4: オーバー・ダビング

録音したトラック1、2の演奏を聞きながら、マイクからの入力音をトラック3に録音します。

## 4-1. 入力機器を接続する

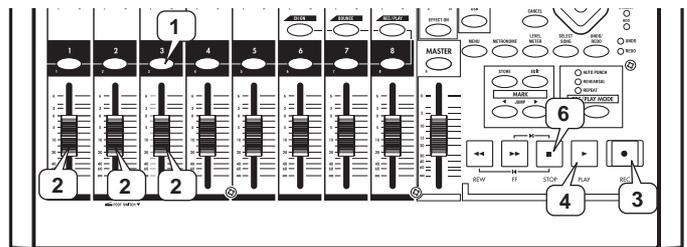
マイクを接続します。

- 1) 使用するマイクに合わせてINPUT3のXLRかTRSフォーン・ジャックに接続します。  
コンデンサー・マイクを使用するときは接続後にPHANTOMキーをオンにします。
- 2) 最大入力時に、PEAK LEDが点灯するようにTRIMノブを回し調整します。  
Level Meter画面で、EXIT/CANCELキーを何度か押し、レベル・メーターをインプット表示(IN)に切り替えて入力レベル確認します。



## 4-2. 録音を開始する

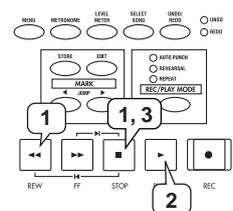
- 1) トラック3のチャンネル・キーを何度か押して録音(赤色点灯)にします。
  - 2) トラック1、2と3のフェーダーを徐々に上げてモニター・スピーカー(またはヘッドホン)のモニター音量を確認します。
  - 3) RECキーを押して録音待機状態にします(キー点滅)。
  - 4) PLAYキーを押して、録音を開始します(REC、PLAYキー点灯)。
  - 5) トラック1、2の再生を聴きながら演奏を開始してください。
  - 6) 演奏が終了したら、STOPキーを押して、録音を停止します(REC、PLAYキー消灯)。
- 録音後、アンドゥ・データを作成するため、画面に“Working...”が表示されます。この作業はソングの長さが長いほど、作業終了までの時間がかかります。



## 4-3. ソングの確認

録音が正しく行われたかを確認します。

- 1) 録音を開始した位置に移動します。  
STOPキーを押しながら、REWキーを押すとソングの先頭に戻ります( p.22「2.ロケーション(位置)」)。
- 2) PLAYキーを押して、再生を開始します(キー点灯)。  
**note** 録音/再生の自動切り替えの設定がオン(工場出荷時)になっているので、トラックの設定を録音後に再生にしなくても、自動的に再生になります( p.31「2-2.オート・インプット」)。
- 3) STOPキーを押して、再生を停止します(PLAYキー消灯)。



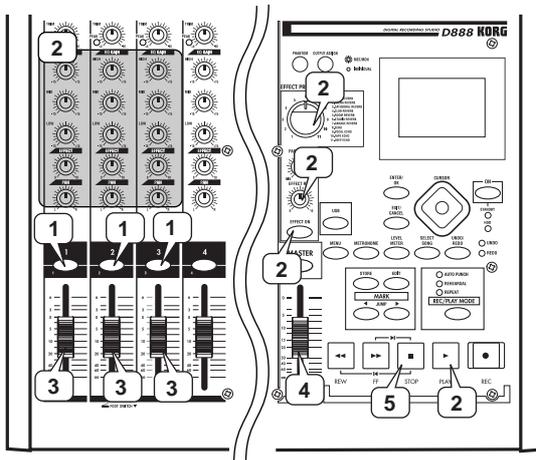
## 5: ミックス・ダウンとマスタリング

各トラックの音声にエフェクト、EQや定位を調整して全体のバランスを整え、2トラックのステレオ・データにまとめて録音することを、ミックス・ダウンと言います。

本機はミックス・ダウン用にマスター・トラックを装備しています。ここにミックス・ダウン録音をしてみましょう。

### 5-1. 各トラックの音質、音量を調整する

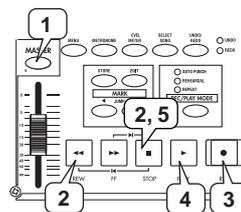
- 1) トラック1、2、3のチャンネル・キーを何度か押して再生( 緑色点灯 )にします。
- 2) PLAYキーを押して、再生をしながら各トラックの調整をします。
  - ・チャンネル1、2、3のそれぞれ3つのEQ GAINノブを動かすと音質が変化します。
  - ・チャンネル1、2、3のPANノブを左右に回すと定位を調整することができます。
  - ・エフェクトをかけるときは、EFFECT ONキーを押して( キー点灯 )、EFFECT RTNノブを右に回してください。エフェクトのプログラムはEFFECTセクターで選びます。
  - ・チャンネル1、2、3のEFFECTノブを右に回して、チャンネルごとにかかるエフェクトを調整します( p.33「エフェクト」)。
- 3) トラック1、2、3のフェーダーで各チャンネルの音量バランスを確認します。  
Level Meter画面で、EXIT/CANCELキーを何度か押し、レベル・メーターをチャンネル表示( IN )に切り替えて入力レベル確認します。
- 4) MASTERフェーダーでマスター・トラックの音量を調整します。
- 5) 確認が終了したら、STOPキーを押して、再生を停止します( キー消灯 )。



### 5-2. 録音を開始する

- 1) MASTERキーを何度か押して録音( 赤色点灯 )にします。
- 2) 録音を開始する位置に移動します。  
STOPキーを押しながら、REWキーを押すとソングの先頭に戻ります。
- 3) RECキーを押して録音待機状態にします( キー点滅 )。
- 4) PLAYキーを押して、録音を開始します( REC、PLAYキー点灯 )。
- 5) 録音が終わったら、STOPキーを押して、録音を停止します。

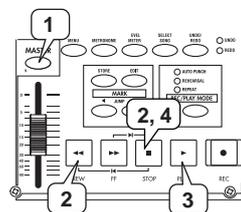
▲ 録音後、アンドゥ・データを作成するため、画面に“ Working...”が表示されます。この作業はソングの長さが長いほど、作業終了までの時間がかかります。



### 5-3. ソングの確認

録音が正しく行われたかを確認します。

- 1) MASTERキーを何度か押して再生( 緑色点灯 )にします。
- 2) 録音を開始した位置に移動します。  
STOPキーを押しながら、REWキーを押すとソングの先頭に戻ります。



- 3) PLAYキーを押して、再生を開始します(キ一点灯)。
- 4) STOPキーを押して、再生を停止します(PLAYキー消灯)。

## 5-4. ソングの保存について

本機では、録音/編集したソング・データや各種パラメーターは、電源のシャットダウン操作時、またはソングの選択時などに自動的に保存されます。これをオート・セーブ機能といいます。

また、手動でセーブすることもできます( p.36「1-4. ソングを保存する」)。

## 6: 構成

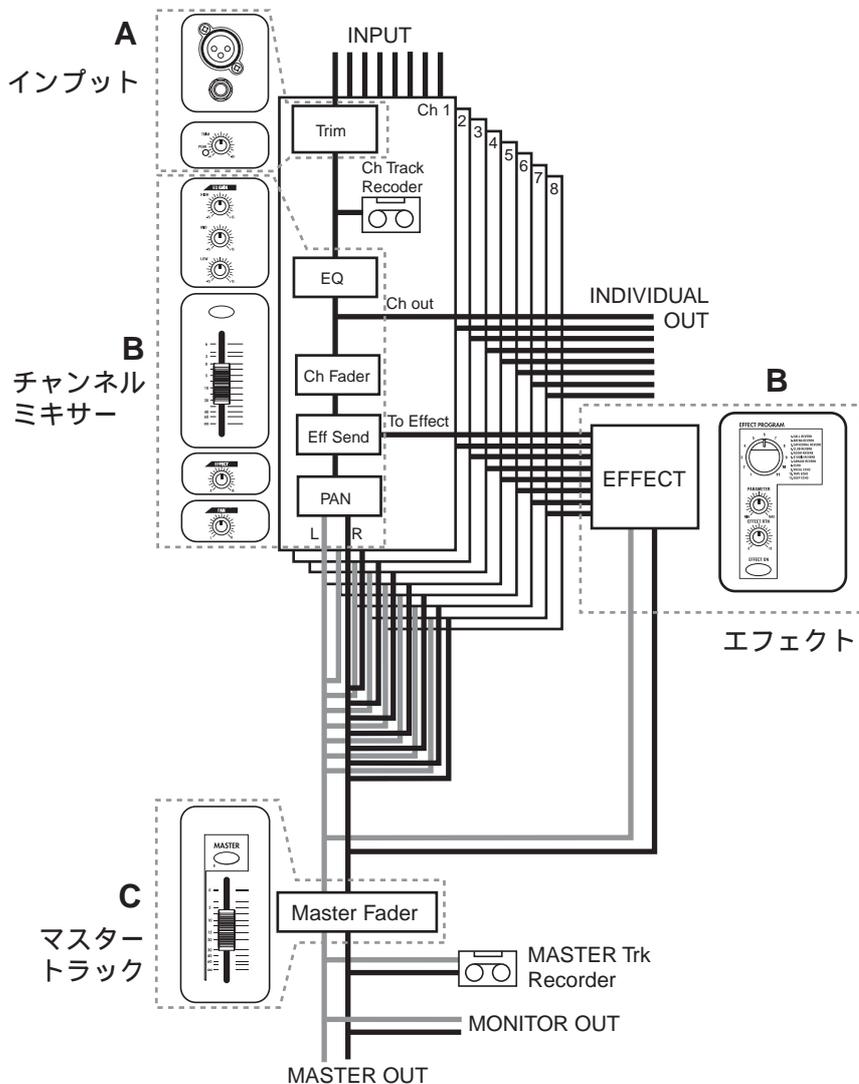
本機のリコーダーの音声の流れとノブやフェーダーの関係は、簡略化すると右図のようになっています。

各チャンネル入力からチャンネル・トラックへの録音レベルはAの部分で調整します。

このとき、モニターの音質音量などは、Bの部分で調整します。

また、録音した演奏を再生するときも、Bの部分で調整します。

なおその状態で、マスター・トラックに録音、出力するレベルはCの部分で調整します。



# オペレーション

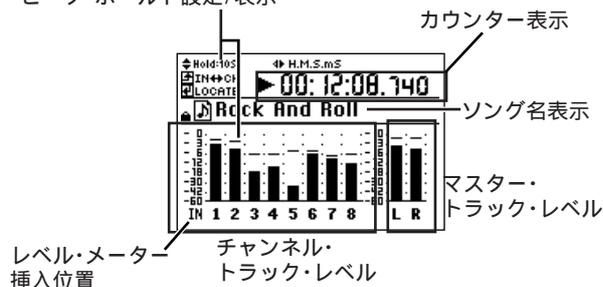
## レベル・メーター

電源をオンにするとディスプレイには、このLevel Meter画面が表示されます。また、この画面はLEVEL METERキーを押しても表示することもできます。

この画面で、本機の動作状態や設定を確認することができます。

## 1. 表示内容と設定

ピーク・ホールド設定/表示



### 1-1. ピーク・ホールドの設定

入力レベルやモニター・レベル音声などを調整するとき、レベル・メーターの“ Hold Time ”を長く設定すると、確認しやすくなります。

ディスプレイがLevel Meter画面のときに、カーソル・キー上下を何度か押し、“ Hold Time ”を設定します。設定範囲は、オフ(0)、4秒、10秒、常に表示( )です。

**note** LEVEL METERキーを押すと、ホールド表示がクリアされます。

### 1-2. レベル・メーターの位置

チャンネル・トラックのレベル・メーターの挿入位置が選べます。チャンネル・トラックに録音するときはインプット・レベルを、マスター・トラックに録音したり、モニターのレベルを見るときは、チャンネル・レベルを表示します。

ディスプレイがLevel Meter画面のときに、EXIT/CANCELキーを押すたびに、インプット・レベル、チャンネル・レベルに切り替わります。

表示は、IN(インプット)、CH(チャンネル)になります。

**note** マスター・トラックのレベル・メーターの挿入位置は、マスター・フェーダーの後(マスター・アウト)に固定されています。

### 1-3. カウンター表示の切り替え

Level Meter画面のカウンターに表示するロケーション(次項)の単位を切り替えることができます。

ディスプレイがLevel Meter画面のときに、にカーソル・キー左右を押すことでロケーションの単位を切り替えます。

表示するロケーションの内容は、次の3種類の表示に設定できカウンター左上部に表示されます。

H.M.S.mS.(時間表示)

\_\_\_\_\_.F “時”：“分”：“秒”：“1/1000秒”

ロケーションの現在位置が、ソングの先頭からの絶対時間で表示されます。

最大値5:59:59.999

H.M.S.F.(フレーム表示)

\_\_\_\_\_.F “時”：“分”：“秒”：“フレーム”

ロケーションの現在位置が、ソングの先頭からの絶対時間とフレーム数で表示されます。通常、MTCで同期させるときに使用します。本機のフレーム・レートは30ノンドロップ・フレームです。最大値5:59:59.29F

Free Time(残量表示)

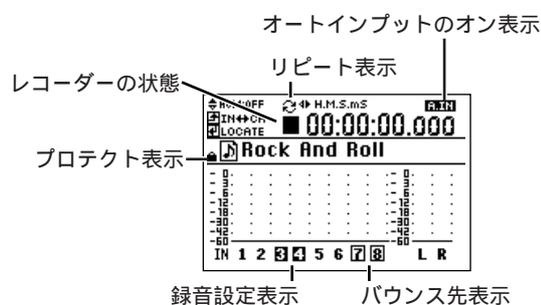
\_\_\_\_\_. “時”：“分”：“秒”：“1/1000秒”

本機の録音可能な残り時間(ハードディスク・ドライブの残容量)を表示します。

## 1-4. その他

ほかにも、Level Meter画面を見るだけで、本機の状態や設定状況がひとめで確認できます。

**note** ENTER/OKキーを押すと、ロケーション画面に切り替わります( p.22「カウンターでの移動」)。



オート・インプットのオン表示

オート・インプットの設定がオンのとき表示されます。オフのときは表示はありません( p.31 )。

レコーダーの状態

録音、再生、停止など現在のレコーダーの状態がシンボルで表示されます( p.21 )。

リピート表示

REC/PLAY MODEのリピートがオンになっていると表示されます。なお、このときパネルのREPEAT LEDが点灯します( p.30、32 )。

プロテクト表示

カレント・ソングにプロテクトがかかっているときに、鍵マークが表示されます。オフのときは表示はありません( p.36 )。

録音設定表示

録音に設定されたトラックは、レベル・メーター下のトラック名が、反転表示になります。

バウンス先表示

バウンス録音先に設定されたトラックは、レベル・メーター下のトラック名が、四角い枠囲み表示になります( p.27 )。

# ソング、ロケーション

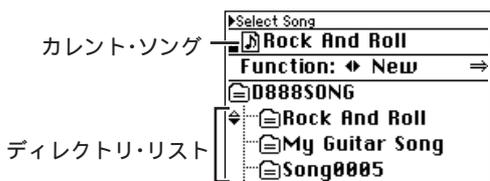
## 1. ソング

### 1-1. 新しいソングを作る

録音するための領域をハードディスクの中に確保します。この単位を本機ではソングと呼び、新しく曲を録音するときは、このソングを作成します。

15ページ「2-1.新しいソングを作る」も参照してください。

- 1) SELECT SONGキーを押し、Select Song画面を表示します。ディレクトリ・リストが表示され、ページの上部に現在、録音/再生できるソング(カレント・ソング)が表示されます。

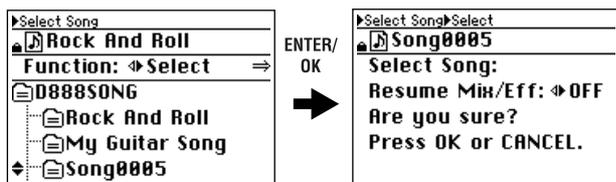


- 2) カーソル・キー左右でFUNCTION欄に“ NEW ”を選び、ENTER/OKキーを押します。画面には“ New Song: Are you sure? ”の表示が出ます。
- 3) もう一度、ENTER/OKキーを押すと新規ソングの作成を開始します。画面には“ New Song: Working... ”の表示が出ます。
- 4) 終了すると“ Song\* ”という名前のソングが追加されます(\* は...1から始まる一連の番号)。カレント・ソングには“ Song ”が選ばれます。

### 1-2. ソングを選ぶ

選んだソングのデータのミキサー設定やエフェクト設定も一緒に読み込むか、読み込まないかが選択できます( p.48「ソング・ファイル詳細」)

- 1) SELECT SONGキーを押し、Select Song画面を表示します。ソング・リストがディレクトリ表示され、ページの上部に現在、録音/再生できるソング(カレント・ソング)が表示されます。
- 2) カーソル・キー左右でFUNCTION欄に“ Select ”を選び、カーソル・キー上下で選択するソングを選びます。
- 3) ENTER/OKキーを押します。カレント・ソングに選択したソングが表示され、画面には“ Resume Mix/...”の表示が出ます。



- 4) カーソル・キー左右でミキサー、エフェクトの設定を読み込むときは“ ON ”を、読み込まないときは“ OFF ”を選び、ENTER/OKキーを押します。

▲ プロテクトがかかっているソングは、読み込まない設定“ OFF ”を選ぶことができません。

画面には“ Select Song: Working... ”の表示がでます。

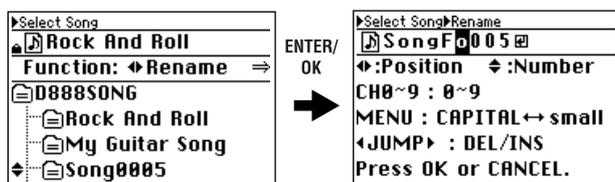
- 5) 終了するとカレント・ソングに選んだソング名が表示されます。

### 1-3. ソングの名前を変更する

ソングの名前を変更します。

ソング名は最大16文字までつけることができます。

- 1) SELECT SONGキーを押し、Select Song画面を表示します。ソング・リストがディレクトリ表示され、ページの上部に現在、録音/再生できるソング(カレント・ソング)が表示されます。
- 2) カーソル・キー左右でFunction欄に“ Rename ”を選び、カーソル・キー上下で名前を変更するソングを選びます。カレント・ソングの名前を変更するときは、ソングの選択は不要です。
- 3) ENTER/OKキーを押し、Rename画面を表示します。



- 4) カーソル・キー左右で変更する文字位置を選択し、カーソル・キー上下で文字を選びます。カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キーを使って数字を直接選ぶこともできます。大文字、小文字切り替えはMENUキーを押します。文字の削除( DEL )、挿入( INS )はJUMPキーを押します。
- 5) 入力した名前に変更する場合はENTER/OKキーを押し、変更を決定します。変更しない場合はEXIT/CANCELキーを押します。

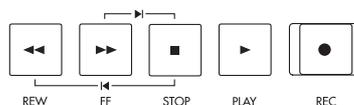
使用できる文字は大文字A~Z、小文字a~z、数字0~9、スペースと下図の記号です。



### 1-4. ソングのコントロール

ソングの録音、再生などのコントロールはトランスポート・キーを使って行います。

なお、ソングの現在の状態(再生中、録音中など)は、Level Meter画面に表示されます。



**PLAYキー**  
再生を行います。再生時にはキーが点灯します。また再生時の早送り、早戻し時にはキーが点滅します。

**RECキー**  
録音を行います。いずれかのトラックが録音になっていないと録音できません。キーを押すと録音待機状態(キー点滅)になり、PLAYキーを押して録音を開始(キー点灯)します。

▲ REC/PLAY MODEの設定により録音開始条件は変わります。

**STOPキー**  
録音、再生を停止します。STOPキーを押しながらREWキーを押すと曲の先頭へ、STOPキーを押しながらFFキーを押すと曲の終わりへ移動します。

FFキー

早送りを行います。  
FFキーを押している間早送りされます。

REWキー

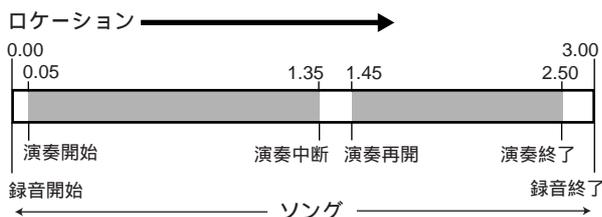
早戻しを行います。  
REWキーを押している間、早戻しされます。

## 2. ロケーション(位置)

ソングの演奏データはロケーションと呼ばれる位置情報で管理されています。

Level Meter画面のカウンターにはソングのロケーションが選んだ単位で表示されています。( p.20「1-3. カウンター表示の切り替え」)

このロケーションはソングの現在位置を知るのに便利にできており、ソング・データのエディットや移動に使用します。



なお、すばやくロケーションを移動するには、ロケーションをマークに登録すると、マークを選ぶことで移動することができます。

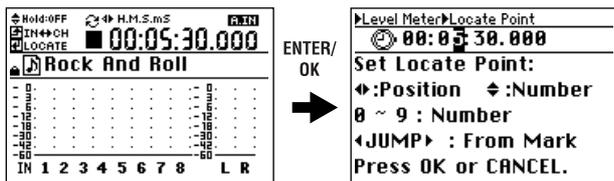
### 2-1. ロケーションを移動する

#### カウンターでの移動

Level Meter画面のときにENTER/OKキーを押すと、ロケーション画面に切り替わります。

カーソル・キー左右を押して、変更するロケーションの桁を選びます。カーソル・キー上下を押して、数値を変更します。チャンネル・キーで数値を直接指定したり、JUMPキーで変更することもできます。

移動するロケーションを確定したら、ENTER/OKキーを押して、移動を実行します。



## FF、REWキーによる移動

### 後へ移動(早送り)する

FFキーを使います。  
再生中は、押している間だけソングの後へ移動し、離すとその位置から再生を始めます。  
停止中は、押している間だけソングの後へ移動し、離すとその位置で停止します。

⚠ リピート再生中にFFキーを押すとリピート再生が停止し、後へ移動を始めます。

### 前へ移動(早戻し)する

REWキーを使います。  
再生中は、押している間だけソングの前へ移動し、離すとその位置から再生をはじめます。  
停止中は、押している間だけソングの前へ移動し、離すとその位置で停止します。

⚠ リピート再生中にREWキーを押すとリピート再生が停止し、前へ移動を始めます。

## ソングの先頭/終了位置への移動

### ソングの先頭へ移動する

STOPキーを押しながらREWキーを押すと、ソングの先頭に移動します。

### ソングの終了位置へ移動する

STOPキーを押しながらFFキーを押すと、ソングの終了位置に移動します。

## マークをつけて移動

特定のロケーション(位置)をマークに登録し、その登録したロケーションへ移動します。

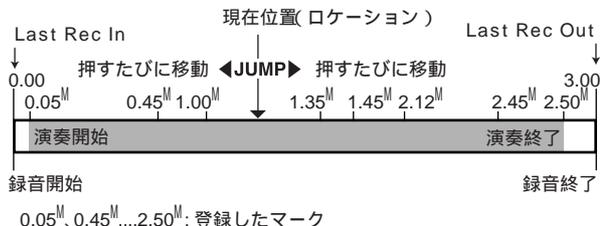
マークは、1ソングに最大100個まで登録できます。  
このマークはMark Edit画面にマーク・リストとして表示され、トラック・エディットやオート・パンチ録音時などのロケート・ポイントを設定するときに使用します。

また、登録したマークのロケーションには、JUMPキーを使って移動することもできます。

なお、Mark Edit画面にマーク・リストには、最後に行った録音の開始位置と終了位置も、自動的に“Last Rec In”、“Last Rec Out”として表示されます。

⚠ “Last Rec In”、“Last Rec Out”をリストで選んで移動することはできませんが、削除やJUMPキーを使った移動はできません。

### マークとロケーション

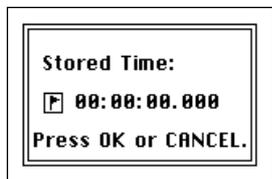


### Mark Edit画面のリスト内容

最後に録音した開始位置( Last Rec In )	00:00:00.000
最後に録音した終了位置( Last Rec Out )	00:03:00.000
ソングの先頭に1番近いマーク位置	00:00:05.000
ソングの先頭から2番目マーク位置	00:00:45.000
ソングの先頭から3番目マーク位置	00:01:00.000
⋮	⋮
ソングの後端に1番近いマーク位置	00:02:50.000

## マークを登録する

- 1) 登録したいロケーションへ移動します。  
カウンターやFF、REWキーで移動します。
- 2) STOREキーを押すと確認画面が表示されます。  
登録をやめるときはEXIT/CANCELキーを押します。



- 3) ENTER/OKキーを押すと、マークを登録します。押した時点で登録が完了し、数秒すると元の画面に戻ります。  
すぐに元の画面に戻るときは、この画面が表示されているときにENTER/OKキーを押します。

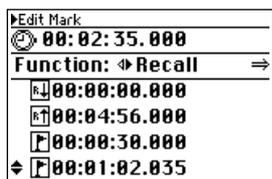
**note** マーク番号は自動的にソングの先頭に近いロケーション順に振り直されます。

- 4) 登録を確認します。  
MARK EDITキーを押して、Edit Mark画面のマーク・リストで確認します。登録してあるマークが3つ以上ある時は、カーソル・キー上下を押し、マーク・リストをスクロールしてマークを確認します。

ソングの再生中/録音中でも操作2)以降を行うことで、マークを登録できます。

## マークを選んで移動する

- 1) MARK EDITキーを押して、Edit Mark画面を表示します。
- 2) カーソル・キー左右で“ Recall ”を選択し、異動先のマークをカーソル・キー上下でマーク・リストから選択します。

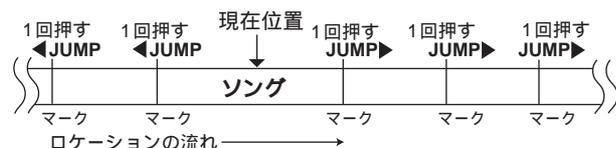


- 3) ENTER/OKキーを押して、マークのロケーションに移動します。

## マークを登録したロケーションに順番に移動する

JUMP▶キーを押すたびに1つずつソング終了位置方向のマークのロケーションに移動します。

◀JUMPキーを押すたびに1つずつソング先頭位置方向のマークのロケーションに移動します。

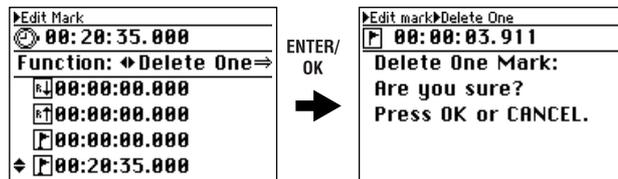


## マークを削除する

⚠ マークの削除は、アンドゥ(やり直し)することができません。

マークを1つ削除する

- 1) MARK EDITキーを押して、Edit Mark画面を表示します。
- 2) カーソル・キー左右で“ Delete One ”を選択し、削除するマークをカーソル・キー上下でマーク・リストから選択します。
- 3) ENTER/OKキーを押します。  
削除するマークが選ばれ、画面には“ Delete One Mark: Are you sure? ”の表示が出ます。

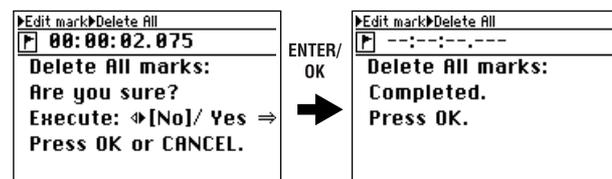


- 4) もう一度ENTER/OKキーを押します。  
削除が終わると画面には“ Delete One Mark: Completed ”の表示が出ます。

- 5) ENTER/OKキーを押すと、削除したマークの1つ前のマークに移動し、Edit Mark画面に戻ります。

マークをすべて削除する

- 1) MARK EDITキーを押して、Edit Mark画面を表示します。
- 2) カーソル・キー左右で“ Delete All ”を選択します。
- 3) ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Delete All Marks: Are you sure? ”の表示が出ます。
- 4) 削除を実行するときは、カーソル・キー左右で“ Execute ”に“ Yes ”を選び、もう一度ENTER/OKキーを押します。  
削除が終わると画面には“ Delete All Marks: Completed ”の表示が出ます。



- 5) ENTER/OKキーを押すと、マークがすべて削除されたEdit Mark画面に戻ります。

⚠ “ Last Rec In ”、“ Last Rec Out ”は削除できません。

# ミキサー

## 1. ミキサーへの音声入力

本機は、8チャンネルのアナログ入力端子を装備しています。これらの入力端子1から8に接続した機器の音声はミキサー・チャンネル1から8に割り当てられていて、それぞれのトラックに録音します。

### 1-1. 入力機器別の接続方法

#### キーボード/ライン・アウト機器

ライン・アウト機器はTRSフォーン端子に接続します。このとき、XLR端子に、マイクが接続されていても、TRSフォーン端子が優先的に使用できます。

#### ギター/ベース

TRSフォーン端子に接続します。本機はギター専用の端子を持っていないので、どのチャンネルにも使うことができます。

**note** ピックアップがアクティブ・タイプのギターやベースなどは直接入力できますが、パッシブ・タイプ(プリアンプを内蔵していない)の場合は、インピーダンス・マッチングの関係で適正な入力音量、音質が得られません。プリアンプやエフェクターを通して接続してください。

#### マイク

使用するマイクに合わせて、TRSフォーンまたはXLR端子に接続します。

XLR端子を使用するときは同じチャンネルのTRSフォーンは使用しないでください。ジャックが接続されているとXLR端子を使うことができません。

**!** ファンタム電源を使用するときは、8チャンネルすべてに供給されますので注意してください。

**!** ファンタム電源を入れたままマイクの挿抜をするとマイクや本機を破損することがあります。

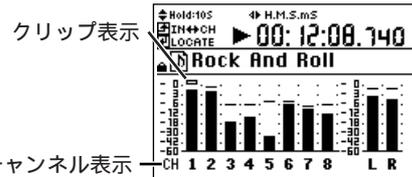
### 1-2. 入力レベルの調整

本機はインプット・チャンネルとチャンネル・トラックが一致しています。アサイン設定はなく、INPUT端子1、2...8に入力された音声はチャンネル・トラック1、2...8に入ります。

- 1) 入力機器を接続します。  
MASTERフェーダー、PHONESレベル・ノブ、モニターLEVELノブを下げてからINPUT端子に接続します。
- 2) ミキサー・チャンネルに入力音を立ち上げます。
  - ・ CH ONキーをオンにして、各チャンネルのチャンネル・キーをオン(オレンジ色点灯)を確認します。
  - ・ REC/PLAYキーをオンにして、チャンネルのチャンネル・キーを録音(赤色点灯)にします。
- 3) 入力レベルを調整します。  
入力機器の最大音量のときにPEAK LEDが点灯しないようにTRIMノブを調整します。  
このとき、ディスプレイをLevel Meter画面にして、EXIT/CANCELキーを押してインプット表示(IN)にすることで入力レベルが確認できます。

### 1-3. モニター・レベルの調整

- 1) ディスプレイをLevel Meter画面にして、EXIT/CANCELキーを何度か押し、チャンネル表示(CH)にします。
- 2) チャンネル・フェーダーをユニティ・ゲイン(0dB)に設定します。
- 3) 入力機器から入力があると、画面のレベル・メーターが入力に合わせて変化します。
- 4) 最も強く弾いたときでもレベル・メーターに、クリップ・マーク“□”がでないようにチャンネル・フェーダーを調整してください。
  - ・ MASTERフェーダーとPHONESレベル・ノブ、またはモニターLEVELノブを徐々に上げて、ヘッドホンまたはMONITOR端子に接続したモニター・スピーカーなどで音声を確認します。



## 2. ミキサーからの音声出力

本機は2つの出力方法を選ぶことができます。OUTPUT ASSIGNキーを押すたびに、MST/MON(キー点灯)、INDIVIDUAL(キー消灯)が切り替わります。

### 2-1. MST/MONの場合

MASTER L, R, MONITOR L, R、ミキサー・チャンネル5、6、7、8の音声出力になります。

#### MASTER L, R

マスター・バスの音声を出力します。レベルの調節はMASTERフェーダーで行います。

#### MONITOR L, R

マスター・バスのMASTERフェーダーの後の音声を出力します。最終的なレベルの調節はモニターLEVELノブで行います。

#### 5、6、7、8

チャンネル・トラック5、6、7、8のチャンネル・フェーダーの前の音声信号を出力します。  
AUX OUTの代わりに使用することができます。

#### S/P DIF OUT

MASTER L, R端子と同じ音声を、44.1 kHz/16ビットのデジタル信号として出力します。

#### PHONES 1、2

MONITOR L, R端子と同じ音声を出力します。最終的なレベルの調節は、それぞれのPHONESレベル・ノブで行います。

## 2-2. INDIVIDUALの場合

ミキサー・チャンネル1、2、3、4、5、6、7、8の音声出力になります。

1、2、3、4、5、6、7、8

チャンネル・トラック1、2、3、4、5、6、7、8のチャンネル・フェーダーの前の音声信号を出力します。

本機に接続した機器のプリ・アウトに使用することができます。

なお、チャンネル・トラック1、2の出力はモニター・LEVELノブで調整できます。

**note** チャンネル・トラック1、2の出力レベルをチャンネル・トラック3から8の出力に合わせる場合は、モニター・LEVELノブを「10」(右に回しきり)にしてください。

### S/P DIF OUT

チャンネル・トラック3、4と同じ音声を、44.1kHz/16ビットのデジタル信号として出力します。

### PHONES1、2

チャンネル・トラック1、2と同じ音声を出力します。レベルの調節はPHONESレベル・ノブで行います。

## 3. ミキサーの調整

入力のモニター、再生時の音量や音質、定位などをミキサー部で調整し、サウンドを仕上げます。

**note** エフェクトの調整については、33ページ「エフェクト」をご覧ください。

### 3-1. 音量の調整

#### 各チャンネルの音量レベルを調整する

入力のモニター、再生時の音量は、各チャンネル・フェーダーで設定します。フェーダーを上下させて音量を調整します。

- 1) ディスプレイをLevel Meter画面にして、EXIT/CANCELキーを何度か押し、チャンネル・レベル表示にします。
- 2) チャンネル・フェーダーでクリップさせないようレベル・メーターを見ながら音量を調整します。

**note** チャンネル・フェーダーは、消音(-)~ユニティ・ゲイン(0dB)~+6dBのゲインを得ることができます。

#### 全体の音量レベルの調整

MASTER OUT端子から出力される音量やMONITOR OUT端子、ヘッドホン端子に送る音量、またマスター・トラックへ録音するレベルの調節はMASTERフェーダーで行います。

- 1) ディスプレイをLevel Meter画面にして、EXIT/CANCELキーを何度か押し、チャンネル・レベル表示にします。
- 2) マスター・トラックへ録音するレベルの調節はMASTERフェーダーでクリップさせないようレベル・メーターを見ながら音量を調整します。

MONITOR OUT端子から出力される音量の最終調節はモニター・LEVELノブで行います。

ヘッドホン端子から出力される音量の最終調節はPHONESレベル・ノブで行います。

### 3-2. 定位(パン)の調整

各チャンネルのPANノブで調整します。

## 3-3. EQ(イコライザー)

各チャンネルのイコライザー・ゲインのHIGH、MID、LOWノブで、高域、中域や低域ゲインを調整します。ゲインの調整幅は±15dBで中心周波数は10kHz、2.5kHz、100Hzの固定です。EQは再生やマスター、チャンネル出力に反映されますが、チャンネル・トラックの録音には反映されません(19ページ「6:構成」参照)。

### 再生音にEQをかける

- 1) REC/PLAYキーを押し、EQをかけるチャンネルのチャンネル・キーを押し再生(キー緑色点灯)にします。
- 2) PLAYキーを押し、ソングを再生します。
- 3) HIGH、MID、LOWノブで、高域、中域や低域ゲインを調整します。
- 4) LEVEL METERキーを押し、レベル・メーターでチャンネル・レベルを確認します。

EQの値を大幅に増減した場合、チャンネルのレベル・バランスや全体のレベルを取り直す必要があります(「3-1. 音量の調整」参照)

## 3-4. チャンネルのミュート(消音)

CH ONキーをオンにしてチャンネル・キーでチャンネルごとにミュート(消音)の設定ができます。

- 1) CH ONキーをオンにします。  
有効になっているチャンネルのチャンネル・キーがオレンジ色に点灯します。  
**note** 新しいソングを作成したときは、全チャンネルが有効になっています。
- 2) ミュートするチャンネルの、チャンネル・キーを押すとミュートします(キー消灯)。

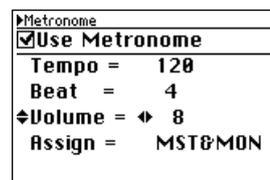
## 4. メトロノーム

メトロノームを聴きながら録音することができます。

メトロノーム音は、マスターとモニター出力に出すことができますが、ライブでの使用時にマスターからメトロノーム音を出したくないときは、モニター出力のみにすることもできます。

- 1) METRONOMEキーを押し、Metronome画面を表示します。
- 2) ENTER/OKキーを押すと、「Use Metronome」にチェックが入り(オン)ます。  
ENTER/OKキーを押すたびにオン、オフを繰り返します。
- 3) カーソル・キー上下で変更するパラメーター選択し、カーソル・キー左右で値、または設定を選択します。

「Use Metronome」がオンのときは、METRONOMEキーが点灯し、録音を開始するとメトロノームがスタートします。



設定パラメーター

Tempo(テンポ)	♪ = 40 ~ 240
Beat(拍子)	0(強拍なし)、2、3、4、6、8拍子
Volume(音量)	0 ~ 10
Assign(出力先)	Mst&Mon(Master&Monitor)、Monitor

# 録音(基本)

本機は8トラックのチャンネル・レコーダーとステレオ・トラックのマスター・レコーダーを持っています。

8トラックのチャンネル・レコーダーはそれぞれバーチャル・トラックを持っています(「バーチャル・トラックの選択」参照)。

**note** 一度も録音されていないバーチャル・トラックに最初に録音するときは、途中のロケーションから録音すると、録音停止時の処理に時間がかかることがあります。このときロケーションが大きい(ソングの終了位置に近い)ほど処理時間が長くなります。

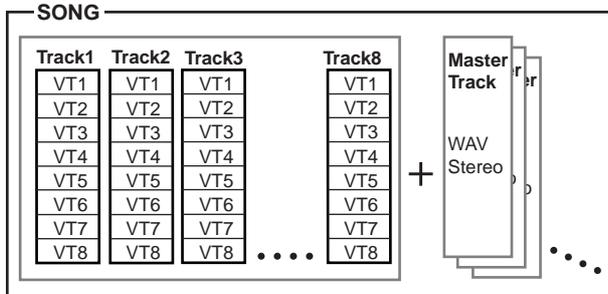
## 1. バーチャル・トラック

本機には、1ソングに8個のチャンネル・トラックがあり、チャンネル・トラックごとに、8つバーチャル・トラックがあります。

録音、再生するときにはどのバーチャル・トラックに録音するか、再生するかを前もって設定します。

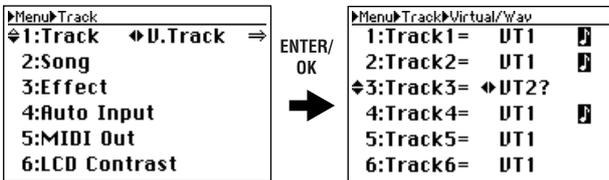
これによって、バーチャル・トラックを切り替えて複数の演奏を録音し、その中から最適な演奏を選ぶことができます。

また、8チャンネルにすべて録音した後でも、バウンス録音することができるので、バウンス録音をして不要になったトラックに、再び録音するなどの使い方ができます。



### 1-1. バーチャル・トラックの選択

- MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- カーソル・キー上下で“ 1.TRACK ”を選択しカーソル・キー左右を何度か押し“ V.Track ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 1 ”を押して“ 1.TRACK ”を選ぶこともできます。
- ENTER/OKキーを押し、Virtual/Wav画面を表示します。



- カーソル・キー上下でバーチャル・トラックを変更するトラックを選択し、カーソルキー左右でバーチャル・トラックを選択します。  
このとき、変更するトラックはカーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー1~8を押して選ぶこともできます。
- バーチャル・トラックを変更すると“ ? ”マークが表示されるので、確定するときはENTER/OKキーを押します。  
“ ? ”マークが表示されたまま、カーソル・キー上下(またはチャンネル・キー)で他のトラックに移ったときは、バーチャル・トラックの変更は無効になります。
- 変更をすべて確定し“ ? ”マークが表示されていないVirtual/Wav画面になったらEXIT/ CANCELキーを押し、Menu画面にもどります。

## 1-2. トラックの表示

録音、再生用にはバーチャル・トラックを選びます。このときVirtual/Wav画面では、それぞれのトラックにVT1~VT8が表示されます。

**!** バーチャル・トラックの選択画面で、WAVファイルを選択することができますが、WAVファイルを選択すると( p.39 )、そのトラックと隣り合ったトラックには録音することができません。録音するときは必ずVT1~VT8を選択してください。

▶Menu▶Track▶Virtual/Wav	
3:Track3=	UT4
4:Track4=	UT4
◆5:Track5=	◀WavST? ⇒
6:Track6=	UT1
7:Track7=	PIANO
8:Track8=	PIANO

VT1...VT8:本機を使用して録音できるバーチャル・トラックで、後に アイコンが付いているのは、録音済みのバーチャル・トラックになります。

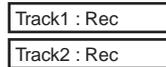
WavST?: バーチャル・トラックを使用しないで、WAVファイルをはじめに選択するときに表示されます( p.39 )。

そのほか: WAVファイルが選択されているときにファイル名の先頭から8文字程度が表示されます。

## 2. 録音の種類

録音にはチャンネル・トラック録音、オーバー・ダビング録音、バウンス録音、マスター・トラック録音があり、組み合わせることで多くのトラックの録音をステレオのマスター・トラックに仕上げることができます。

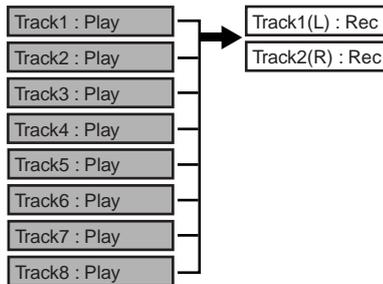
チャンネル・トラック録音



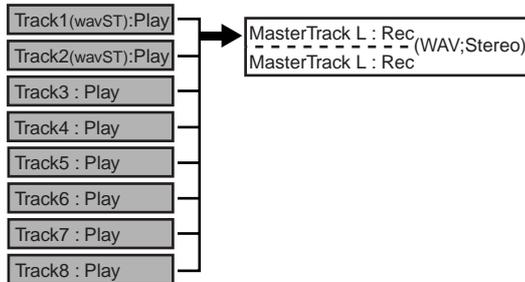
オーバー・ダビング録音



バウンス録音(チャンネル・トラックへのダビング)



マスター・トラック録音(マスター・トラックへのダビング)



**note** オート・インプットの設定をオン(工場出荷時)にすると、録音に指定したトラックでもレコーダーが再生状態のとき、自動的に再生音を聞くことができます( p.31 )

ほかにも、録音した一部を録音し直すパンチ録音やループ録音、録音ではありませんが、ダビング録音と同等のトラックのコピーなどがあります(「録音(応用)」参照)。

録音後、アンドゥ・データを作成するため、画面に“ Working... ”が表示されます。この作業はソングの長さが長いほど、作業終了までの時間がかります。

## ソングが完成するまでの手順

ソングを作る時は、はじめに各チャンネルのトラックに録音します。1度に8チャンネルまで録音することができますが、順番に重ね録り(オーバー・ダビング)する方法もあります。

8トラックを使いきった場合は、バウンス録音を行い、空きのトラックを作り、そこに新たな録音をすることができます。

バウンスをした元の録音を残したまま、新たな録音をする時は、パーチャル・トラックを切り替えることで、そのチャンネルに録音できます。

こうして、最大8つのトラックにバウンス録音やオーバー・ダビングを繰り返しチャンネル・トラック録音を終わります。

最終的なミックス・ダウンはマスター・トラックにステレオで行います。

これは16ビット、44.1kHzのWAVファイルとして記録されます。このため、コンピューターに接続してそのファイルをデジタル・メディアに書き込む事で、オーディオCDと同等のものを作れます。

また、このソングのマスター・トラックのWAVファイルは、ミックス・ダウン(マスター録音)を行うたびに新たに作られるので、セッティングをかえてミックス違いをいくつか作り、その中から一番気に入ったものを選ぶことができます。

マスター・トラックのWAVファイルは録音をするたび、ソング・フォルダ内にハードディスク・ドライブの容量が許す限り作成されますが、本機で認識できるのは100までです。

マスター・トラックには最後に行った録音のWAVファイルが選択されています。それ以前に行った録音のマスター・トラックのWAVファイルを聴くときは、39ページ「マスター・トラック・ファイルの選択」を行ってください。

## 2-1. チャンネル・トラック録音

各チャンネルに録音をします。最大8チャンネルを同時録音できます。

- 1) 新しいソングを作成します( p.21「1-1.新しいソングを作る」)。
- 2) 録音するチャンネルに機器を接続します。( p.24「1-1.入力機器別の接続方法」)。
- 3) 録音するチャンネルを録音設定にします
  - ・REC/PLAYキーをオンにして、チャンネルのチャンネル・キーを録音(赤色点灯)にします。
- 4) 入力レベルを調整します。  
入力機器の最大音量のときにPEAK LEDが点灯しないようにTRIMノブを調整します。  
このとき、ディスプレイをLevel Meter画面にして、EXIT/CANCELキーを押しインプット表示(IN)にすることでレベルが確認できます。
- 5) モニター・レベルを調整します( p.24「1-3. モニター・レベルの調整」)。
- 6) 録音する位置に現在ロケーションを移動します。  
STOPキーを押しながらREWキーを押すとソングの先頭に戻ります。
- 7) レコーダーを録音待機状態にします。  
RECキーを押します( RECキー点灯 )。
- 8) 録音を開始します。  
PLAYキーを押します( REC、PLAYキー点灯 )。  
演奏を開始してください。

9) 録音を停止します。

演奏が終了したら、STOPキーを押します( RECキー、PLAYキー消灯 )。録音開始位置に戻り、再生して録音が正しく行われたかを確認してください。

**note** Mark Edit画面のマーク・リストで、開始位置( Last Rec In )を選択して録音開始位置に戻ることができます。

## 2-2. オーバー・ダビング録音

録音した演奏を聞きながら、新たな演奏を別のトラックに録音します。

- 1) 録音するチャンネルに機器を接続します( p.24「1-1.入力機器別の接続方法」)。
- 2) 再生トラックを選びます。  
REC/PLAYキーを押して、再生するトラックのチャンネル・キーを押して、再生( キー緑色点灯 )にします。
- 3) 録音トラックを選びます。  
録音するトラックのチャンネル・キーを押して、録音( キー赤色点灯 )にします。
- 4) 録音します。  
前項「2-2.チャンネル・トラック録音」の操作4)~9)をご覧ください。

## 2-3. バウンス録音

本機は最大8チャンネルまで同時録音できますが、この8チャンネル分の録音を2つ、または1つチャンネルにまとめることができます。これをバウンス録音といいます。

バウンス録音をしたトラックの演奏を聴きながら、さらにオーバー・ダビング録音を繰り返すと、16や32トラック・レコーダーを使ったようなソングを作ることができます。

複数のトラックを2トラック(ステレオ)もしくは、1トラック(モノラル)にまとめるバウンス録音があります。

**note** バウンス録音時にはエフェクトを使い、録音することもできます( p.33 )。

1トラックにバウンスする場合はバウンス先に、どのトラックを選ぶこともできますが、2トラックにバウンスする場合はバウンス先に、隣り合ったトラック1-2、3-4、5-6、7-8しか選ぶことができません。

### 複数のトラックを2トラック(ステレオ)にまとめる

- 1) バウンス録音をする再生トラックのパーチャル・トラックを確認します。
  - note** 再生しないトラックはフェーダーを下げるか、CH ONキーを押したあと、そのチャンネル・キーを押して( キー消灯 )ミュートしてください。
- 2) BOUNCEキーを押して、バウンス先のトラックの隣り合ったチャンネル・キーを押します。  
バウンス先のチャンネル・キーが赤色点滅になります。
  - note** バウンス先は1-2、3-4、5-6、7-8でステレオ・トラックが選択でき、それぞれL-Rチャンネルになります。
  - 1-2、3-4、5-6、7-8以外の組み合わせは選択できません。これ以外の組み合わせでチャンネル・キーを押した場合は、後に押したチャンネルの組み合わせが有効になります。
  - バウンス先にすでに録音データがある場合は、上書き録音になるので元のチャンネル・トラックの録音データは無くなります。
- 3) 再生トラックのEQや定位を調整します。  
PLAYキーを押して再生し、トラック1~8のEQ GAINノブで音質を、PANノブでステレオ定位を調整します。

- 4) 再生/録音レベルを調整します。  
再生レベルは、各チャンネル・フェーダーで調整します。  
LEVEL METERキーを押し、フェーダーに対応したチャンネル表示(CH)で確認することができます。
- 5) 録音レベルはMASTERフェーダーで調整します。  
調整後、STOPキーを押します。
- 6) 録音する位置に現在ロケーションを移動します。  
STOPキーを押しながらREWキーを押すとソングの先頭に戻ります。
- 7) レコーダーを録音待機状態にします。  
RECキーを押します(RECキー点滅)。
- 8) 録音を開始します。  
PLAYキーを押します(REC、PLAYキー点灯)。
- 9) 録音を停止します。  
STOPキーを押します(REC、PLAYキー消灯)。録音開始位置に戻り、再生して録音が正しく行われたかを確認してください。

### 複数のトラックを1トラック(モノラル)にまとめる

- 1) バウンス録音をする1~8トラックのパーチャル・トラックを確認します。  
**note** 再生しないトラックはフェーダーを下げるか、CH ONキーを押したあと、そのチャンネル・キーを押して(キー消灯)ミュートしてください。
- 2) BOUNCEキーを押して、バウンス先のチャンネル・キーを押します。  
バウンス先のチャンネル・キーが赤色点滅になります。  
 バウンス先は録音していないチャンネル・トラックか、再生しないトラックの録音していないパーチャル・トラックを選択してください。録音済みのトラックやそのパーチャル・トラックを選ぶと、上書き録音になるので元のチャンネル・トラックだけの録音データは無くなります。
- 3) 再生トラックのEQを調整します。  
PLAYキーを押して再生し、トラック1~8のEQ GAINノブで音質を調整します。
- 4) 前項「複数のトラックを2トラック(ステレオ)にまとめる」の手順4)~9)を行います。

## 2-4. マスター・トラック録音

録音が終了した各トラックの演奏に、エフェクトやEQなどをかけて全体のバランスを最終的に調整し、2トラックのステレオ・データにまとめて、マスター・トラックを作成します。  
マスター・トラックはステレオのWAVファイルとして残っていき、このファイルはマスター録音するたびに次々に作られていきます。このとき作られた順番に合わせてMST00000.WAV、MST00001.WAV、MST00002.WAVのように名前が自動的につきます。

**note** マスター・トラックには常に最後に行ったマスター録音のWAVファイルが選択されているので、それ以前のマスター録音のWAVファイルを聴くときは、39ページ「マスター・トラック・ファイルの選択」を行ってください。

 ここで作成したマスター・トラックのWAVファイルをチャンネル・トラックで選択し、再生することもできます(p.39)。

- 1) マスター・トラックに録音する1~8トラックのパーチャル・トラックを確認します。
- 2) 再生トラックを選びます。  
CH ONキーを押し、再生しないトラックのチャンネル・キーを押して、オフ(キー消灯)にします。
- 3) MASTERキーを何度か押して、赤色の点灯にします。
- 4) 「2-3.バウンス録音」の4)以降を行います。

 マスター・トラック録音の開始位置は、常にソングの先頭から録音されます。また、ソングの終了位置で自動的に録音が終了します。

マスター録音時にはエフェクトを使い、録音することもできます(p.33)。

# 録音(応用)

## 1. 録音の修正

### 1-1. 一部分を録音し直す (パンチ・イン - アウト)

録音した演奏の一部分を間違えたり、思ったような演奏ができなかった場合、ソングの先頭から録音せずにその一部分だけを録音し直すことができます。

パンチ・イン:ソングを再生状態から録音状態に切り替えます。

パンチ・アウト:ソングを録音状態から再生状態に切り替えます。

録音後、アンドゥ・データを作成するため、画面に“Working...”が表示されます。この作業はソングの長さが長いほど、作業終了までの時間がかかります。

### マニュアル・パンチ・イン - アウト

手動でパンチ・インとパンチ・アウトを切り替えます。

再生中にRECキーまたはフット・スイッチ(KORG PS-1ペダル・スイッチ推奨:別売)を押すことで録音を開始し、RECキー、PLAYキー、フット・スイッチのいずれかを押すことで録音を終了します。

パンチ・アウトしたあとは、再度パンチ・インすることはできません。

#### マニュアル・パンチ・イン - アウト録音



1) 一部分を録音し直すチャンネルに機器を接続します( p.24 「1-1.入力機器別の接続方法」)。

2) 再生するトラックを選びます。  
REC/PLAYキーを押して、再生するトラックのチャンネル・キーを押して、再生(緑色点灯)にします。

**note** 再生しないトラックがある場合は、CH ONキーを押してそのチャンネル・キーを押して(キー消灯)ミュートしてください。

3) 録音し直すトラックを選びます。  
録音し直すトラックのチャンネル・キーを押して、録音(キー赤色点滅)にします。

4) 入力レベルを調整します。  
入力機器の最大音量のときにPEAK LEDが点灯しないようにTRIMノブを調整します。  
このとき、ディスプレイをLevel Meter画面にして、EXIT/CANCELキーを押してインプット表示(IN)にすることでレベルが確認できます。

5) モニター・レベルを調整します( p.24「1-3. モニター・レベルの調整」)。

6) 録音し直す位置より少し前に現在ロケーションを移動します( p.22 )。

7) PLAYキーを押して、再生します(PLAYキー点灯)。  
ソングが再生され、再生トラックと録音し直すトラックの再生音が聞こえます。

8) 録音したいロケーションでRECキーを押します(REC、PLAYキー点灯)。  
録音が始まる(マニュアル・パンチ・イン)録音をし直すことができます。

9) 録音を終了したいロケーションでRECキー、またはPLAYキーを押します(RECキー消灯)。

録音が終了し、再生に切り替わります(マニュアル・パンチ・アウト)。

10) STOPキーを押して、停止します(PLAYキー消灯)。

録音終了後、現在ロケーションを録音開始位置より前に移動し、録音した内容を確認してください。

### フット・スイッチを使ったマニュアル・パンチ・イン - アウト

フット・スイッチ(KORG PS-1ペダル・スイッチ推奨:別売)を踏むことによって、パンチ・インとパンチ・アウトを切り替えます。両手がふさがった演奏中や、離れたところからパンチ・イン/アウトを切り替えるのに便利です。

1) FOOT SWITCH端子にフット・スイッチを接続します。

2) フット・スイッチの極性設定をします( p.40 )。

3) マニュアル・パンチ・イン・アウトを行います。  
「マニュアル・パンチ・イン - アウト」の手順に沿って行います。ここで、8)と9)でフット・スイッチを踏むことで、パンチ・インとパンチ・アウトの切り替えができます。

### オート・パンチ・イン - アウト

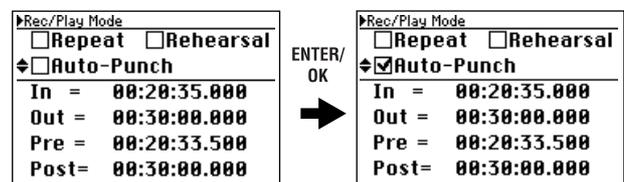
あらかじめ設定しておいたロケート・ポイント(ロケーションの任意の位置)で、自動的にパンチ・インとパンチ・アウトを切り替えます。

#### オート・パンチ・イン - アウト録音



1) 前項「マニュアル・パンチ・イン - アウト」の手順1)~5)を行います。

2) REC/PLAY MODEキーを押して、Rec/Play Mode画面を表示し、カーソル・キー上下で“Auto-Punch”を選択して、ENTER/OKキーを押します。  
チェックマークが付き、AUTO PUNCH LEDが点灯します。



3) カーソル・キー上下で“ In =...”(パンチ・イン)または、“ Out =...”(パンチ・アウト)を選びENTER/OKキーを押します。  
ディスプレイにポイント設定画面が表示されます。

4) ポイント設定画面でロケート・ポイントを設定します。  
「In、Out、Pre、Postのロケート・ポイントの設定方法」をご覧ください。

5) 録音前後の再生位置を設定します。  
カーソル・キー上下で“ Pre =...”(録音開始位置よりどのくらい前から再生するか)または、“ Post =...”(録音終了時位置からどこまで再生するか)を選びENTER/OKキーを押します。  
ディスプレイにポイント設定画面が表示されます。

- 6) ポイント設定画面でロケートポイントを設定します。  
「In、Out、Pre、Postのロケート・ポイントの設定方法」をご覧ください。
- 7) LEVEL METERキーを押し、Level Meter画面に戻ります。
- 8) 録音を開始します。
  - ・RECキーを押すと、“Pre =...”で設定したロケート・ポイントに移動し、録音待機( RECキー点滅 )になります。
  - ・PLAYキーを押すと、再生が開始します。“In =...”で設定したロケート・ポイントからは録音が行われます( REC、PLAYキー点灯 )。
- 9) 録音を終了します。
  - ・“Out =...”で設定したロケート・ポイントになると録音が終了し、再生に切り替わります( RECキー消灯、PLAYキー点灯 )。
  - ・“Post =...”で設定したロケート・ポイントになると停止します。

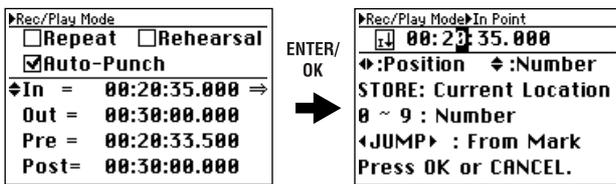
**In、Out、Pre、Postのロケート・ポイントの設定方法**  
ロケート・ポイントを設定するのにポイント設定画面のとき数値で入力する方法と、前もってマークを登録( p.22 )してそれを使う方法があります。

**note** マークを選択後、数値を入力し直して微調整することもできます。

**!** Rec/Play ModeのRepeatがオンで、In Outのとき、PLAYキーやRECキーを押すと、エラー表示がでます。

### 数値で入力

- 1) カーソル・キー上下を押し“ In = .... ”(または“ Out = .... ”、“ Pre = .... ”、“ Post = .... ”)を選択し、ENTER/OKキーを押してポイント設定画面を表示します。



- 2) カーソル・キー左右で設定する位置を選択し、カーソル・キー上下で数字を選びます。  
カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キーを使って数字を直接選ぶことができます。  
このときSTOREキーを押すと、現在位置をポイントに設定できます。
- 3) ポイントの入力が終わったら、ENTER/OKキーを押して決定します。

### マークを使う

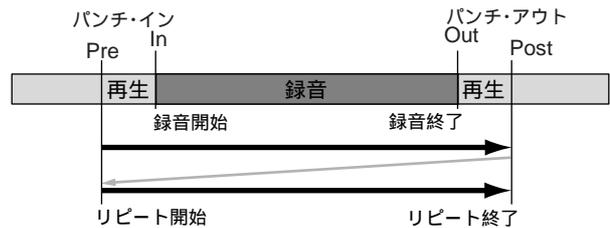
- 1) カーソル・キー上下を押し“ In = .... ”(または“ Out = .... ”、“ Pre = .... ”、“ Post = .... ”)を選択し、ENTER/OKキーを押してポイント設定画面を表示します。
- 2) JUMPキーを押し、希望するロケート・ポイントが登録してあるマークを選びます。  
「数値で入力」の操作2)でポイントを微調整することもできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して決定します。

## 1-2. リピート録音

オート・パンチ・イン・アウト録音設定時にRec/Play Mode画面の“ Repeat ”をオンしておく、IN-OUT間を繰り返し(リピート)録音します。

- 1) オート・パンチ・イン・アウトの設定をします。  
前項「オート・パンチ・イン・アウト」の手順1)~6)を参照してください。
- 2) カーソル・キー上下で“ Repeat ”を選択して、ENTER/OKキーを押します。  
チェックマークが付き(オン)、REPEAT LEDが点灯します。
- 3) オート・パンチ・イン・アウトのロケート・ポイント設定をします。  
前項「オート・パンチ・イン・アウト」の手順7)~11)を参照してください。

オート・パンチ・イン・アウト、リピート録音



- 4) 録音を開始します。
  - ・RECキーを押すと、“Pre =...”で設定したロケート・ポイントに移動し、録音待機状態( RECキー点滅 )になります。
  - ・PLAYキーを押すと、再生を開始します。“In =...”で設定したロケート・ポイントからは録音が行われます( REC、PLAYキー点灯 )。
  - ・“Out =...”で設定したロケート・ポイントになると録音が終了し、再生に切り替わります( RECキー消灯、PLAYキー点灯 )。
  - ・“Post =...”で設定したロケート・ポイントになると停止します。
  - ・その後、“Pre =...”で設定したロケート・ポイントに移動し、同様の動作が繰り返されます。
  - ・うまく演奏ができた時点で録音区間( IN - OUT )外でSTOPキーを押して停止します。
- note** アンドゥ/リドゥ機能を使うと、1回前の録音と最後の録音を確認、選択することもできます。
- 5) 録音内容を確認します。
  - ・PLAYキーを押して再生し、録音した内容を確認します。  
“Repeat ”がオンの状態であれば、IN(パンチ・イン)位置より、OUT(パンチ・アウト)位置まで再生されます。

## 2. 録音関連機能

### 2-1. リハーサル機能

本機には、ミキサーのセッティングやLED表示、ディスプレイ表示を録音と同じ状態で練習するためのリハーサル機能があります。これは、実際には録音されない状態なので、ハードディスクを消費しません。

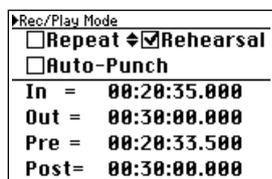
本番録りと同じ状態で何度でも練習でき、納得がいくまで繰り返し演奏をすることができます。

最終的な録音をするときは、そのままのセッティングで、リハーサルをオフにすることですぐに録音に入ることができます。

**note** 一部分の録音をやり直すときは前項の「リビート録音」と組み合わせることで効率の良い練習ができます。

#### リハーサル機能のオン

- 1) REC/PLAY MODEキーを押し、Rec/Play Mode画面を表示し、カーソル・キー上下で“ Rehearsal ”を選択します。
- 2) ENTER/OKキーを押します。  
チェック・マークが付き(オン)、REHEARSAL LEDが点灯します。



- 3) 「2-2.チャンネル・トラック録音」や「2-3.オーバー・ダビング録音」などを行ってください。

REHEARSAL LEDが点灯中は、何度繰り返しても、新たな録音は記録されません。

#### リハーサル機能のオフ

- 1) REHEARSAL LEDが点灯しているときにREC/PLAY MODEキーを押し、Rec/Play Mode画面を表示し、カーソル・キー上下で“ Rehearsal ”を選択します。
- 2) ENTER/OKキーを押します。  
チェック・マークが外れ(オフ)、REHEARSAL LEDが消灯します。
- 3) そのまま、セッティングを変えずに録音をします。

## 2-2. オート・インプット

### 録音/再生の自動切り替え

ミキサー・チャンネルの入力を、レコーダーの録音/再生に連動して自動的に切り替える機能です。通常はオンにすることで録音、再生、オーバー・ダビング録音などをスムーズに行うことができます。

#### オート・インプットがオンの場合

PLAY/RECキーを押し、チャンネル・キーで録音(赤点灯)に設定されたチャンネル  
REW(早戻し)/FF(早送り)/STOP(停止)中は入力音を出力  
PLAY(再生)中はトラック・レコーダーの再生  
REC(録音)中は入力音を出力

PLAY/RECキーを押し、チャンネル・キーで再生(緑点灯)に設定されたチャンネル  
REW(早戻し)/FF(早送り)/STOP(停止)中は出力なし  
PLAY(再生)/REC(録音)はトラック・レコーダーの再生

#### オート・インプットがオフの場合

PLAY/RECキーを押し、チャンネル・キーで録音(赤点灯)に設定されたチャンネル。  
常時、入力音を出力

PLAY/RECキーを押し、チャンネル・キーで再生(緑点灯)に設定されたチャンネル  
REW(早戻し)/FF(早送り)/STOP(停止)中は出力なし  
PLAY(再生)/REC(録音)はトラック・レコーダーの再生

このように、オート・インプットをオンに設定しておくことで、録音に設定したチャンネルが、録音時には録音、そのほかのときは再生に自動的に切り替わります。

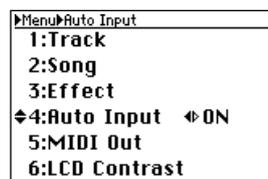
このため、録音したチャンネルを確認するときにチャンネル・キーの切り替えが不要になります。

**note** オート・インプットがオンのときには、Level Meter画面にアイコンが表示されます( p.20 )。

**!** 録音済みのトラックを再生しながら、本機に接続した機器で練習する場合は、オート・インプットの設定をオフにしないと入力音を聞くことができません。  
また、オート・インプットがオンのままでもリハーサル機能(前項)をオンにして録音することで入力音を聞きながらの練習をすることができます。

### オート・インプットのオン、オフ

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“ 4.Auto Input ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 4 ”を押して“ 4.Auto Input ”を選ぶこともできます。
- 3) カーソル・キー左右で“ ON ”、“ OFF ”を切り替えます。  
現在の設定と違う場合は“ ? ”が付きまます。



- 4) 設定を変更するときはENTER/OKキーを押すと確定します。  
変更しないときは、EXIT/CANCELキーを押すと元の設定に戻ります。

# 再生

本機は8トラック同時に再生することができます。また、オート・インプット設定をオンにすることで、チャンネル・キーの録音、再生を切り替えなくても、PLAYキーを押すだけで録音設定されているチャンネルを再生することもできます。

## 1. 再生の種類

本機は同時に最大8トラックを再生するチャンネル・トラック再生とマスタリングを行ったデータをまとめているマスター・トラック再生があります。

▲ 音声データがなくてもSTOPキーを押すまで、再生は止まりません。

### 1-1. チャンネル・トラックの再生

▲ 再生するチャンネルのバーチャル・トラックは前もって選択してください( p.26「1-1.バーチャル・トラックの選択」)。

- 再生するトラックを選びます。  
CH ONキーを押し( キー点灯 )ます。  
再生するトラックのチャンネル・キーをオン( オレンジ色点灯 )にします。  
REC/PLAYキーを押し( キー点灯 )ます。  
再生するトラックのチャンネル・キーを押し、再生( 緑色点灯 )にします。
- 再生を始めるロケーションへ移動します( p.22 )。
- PLAYキーを押して再生を開始します( PLAYキー点灯 )。
- EQや定位の調整をします。
- エフェクトをかけます( p.33 )。
- STOPキーを押して、再生を停止します( PLAYキー消灯 )。  
チャンネル・トラックには、各バーチャル・トラックのデータ以外にも、マスター・トラックのWAVファイルや、USBモードで取り込んだWAVファイルを選択( p.39 )して、再生することもできます。

### 1-2. マスター・トラックの再生

マスター・トラックには、最後にマスター録音をしたデータ( WAVファイル )が選ばれています。それ以前に録音したものを聴くときは、39ページ「マスター・トラック・ファイルの選択」を行ってから再生してください。

- マスター・トラックのMASTERキーを押し、再生( キー緑色点灯 )にします。  
このとき、自動的にチャンネル・トラックはすべてオフになります。
- 再生を始めるロケーションへ移動します( p.22 )。
- PLAYキーを押して再生を開始します( PLAYキー点灯 )。
- STOPキーを押して、再生を停止します( PLAYキー消灯 )。

## 1-3. リピート再生

ソングのIN-OUT間を繰り返し再生します。その区間の内容を確認したり、オート・パンチ録音と併用してリピート録音をすることができます( p.30 )。

- REC/PLAY MODEキーを押しREC/PLAY MODE画面を表示します。
- カーソル・キー上下を押し“ Repeat ”を選択します。
- ENTER/OKキーを押し“ Repeat ”にチェックをつけます。  
パネルのREPEAT LEDが点灯します。
- リピート再生する区間( IN - OUT )を登録します。
- カーソル・キー上下を押し“ In = .... ”を選択し、ENTER/OKキーを押しポイント設定画面を表示します。
- ポイント設定画面でロケート・ポイントを設定します。  
30ページ「In、Out、Pre、Postのロケート・ポイントの設定方法」をご覧ください。  
▲ リピート再生時は“ Pre = .... ”や“ Post = .... ”の設定は必要ありません。この設定はリピート録音時のみ有効です。
- 再生トラックを選びます。  
前々項「1-1.トラック・チャンネルの再生」をご覧ください。
- リピート再生します。  
PLAYキーを押すと、IN位置から再生を開始し、IN - OUT間を繰り返し再生します。  
▲ リピート再生で、OUTからINにつながるまで、1秒程度時間がかかる場合があります。
- STOPキーを押して、再生を停止します( PLAYキー消灯 )。

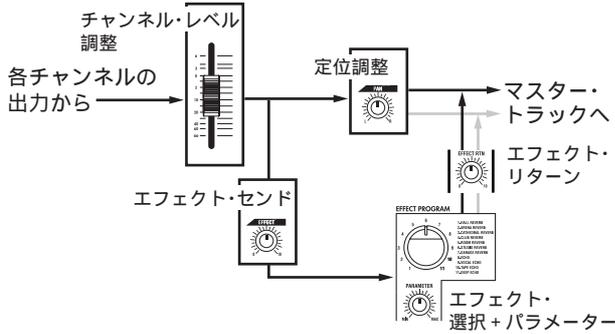
# エフェクト

本機には11種類のエフェクトを内蔵しています。このエフェクトは各チャンネル・トラックで共用になり、それぞれのEFFECTノブを回すことで、かかり具合を調整できます。

また、ソング全体のエフェクト量はEFFECT RTNノブで調整します。

それぞれのエフェクトはパラメーターを調整することができ、この設定はソングを保存するときと一緒に記憶することができます。

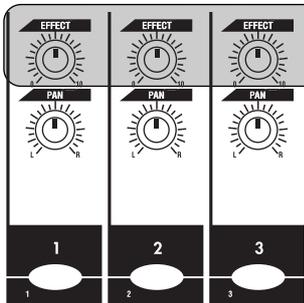
## エフェクトの構成



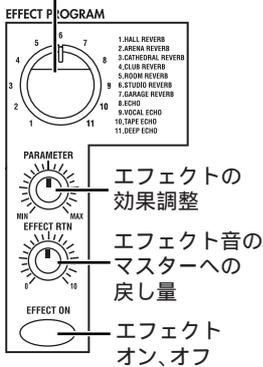
## 1. エフェクトを使う

- 1) EFFECT ONキーを押します。
- 2) EFFECT RTNノブを右一杯に回します。  
EFFECT RTNノブを右に回すとエフェクトのかかった音が増加し、左に回すとエフェクトのかかった音が減少します。
- 3) エフェクトを使用するチャンネル・トラックのEFFECTノブを回します。  
回す量でエフェクトのかかり具合が異なります。EFFECTノブを左に回しきるとエフェクトのかからないドライ音だけになり、右に回すとウェット音(エフェクトがかかった音)が増加します。
- 4) セレクタで使用するエフェクトを選びます。
- 5) PARAMETERノブを回して効果の変化を確認します。  
エフェクト・プログラムによってPARAMETERノブに割り当てられた効果は異なります。(表)

各チャンネルから、エフェクトへの送り量の調整



エフェクトの選択



## 2. プログラムとパラメーター

### 1. HALL REVERB

ホール・タイプのリバーブです。

残響時間 0.1...10.0sec

### 2. ARENA REVERB

やや大きめのホールの残響音が得られるリバーブです。

残響時間 0.1...10.0sec

### 3. CATHEDRAL REVERB

教会のような独特な残響音が得られるリバーブです。

残響時間 0.1...10.0sec

### 4. CLUB REVERB

中程度のクラブハウスの残響音が得られるリバーブです。

残響時間 0.1...5.0sec

### 5. ROOM REVERB

ルーム・タイプのリバーブです。

残響時間 0.1...5.0sec

### 6. STUDIO REVERB

スタジオのような微小な残響音が得られるリバーブです。

残響時間 0.1...5.0sec

### 7. GARAGE REVERB

ガレージのようなルーズな残響音が得られるリバーブです。

残響時間 0.1...5.0sec

### 8. ECHO

繰り返し音がしばらく残る、通常のエコーです。

残響時間 0.1...4.0sec

### 9. VOCAL ECHO

繰り返し音をやや抑えた、ボーカル用のエコーです。

残響時間 0.1...4.0sec

### 10. TAPE ECHO

暖かい感じのする、テープタイプのエコーです。

残響時間 0.1...4.0sec

### 11. DEEP ECHO

繰り返し音が強めの、エコーです。

残響時間 0.1...4.0sec

レベル・メーター

ソング、ロケーション

レキサー

録音(基本)

録音(応用)

再生

オペレーション

エフェクト

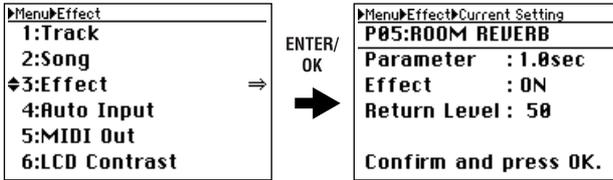
エディット

その他

## プログラムの確認

エフェクトを使ったソングをリロード、または選択したときに、EFFECTセクター、PARAMETER、EFFECT RTNノブの位置に関係なくエフェクト設定を有効にすることができますが、そのときの設定の確認は、Effect画面でおこないます。

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“ 3.EFFECT ”を選択し、ENTER/OKキーを押します。  
Effect画面を表示します。



この状態で、EFFECTセクターやPARAMETERノブを切り替えると、それに伴い画面も切り替わります。

- 3) EXIT/CANCELキーを押すと、Menu画面にもどります。

## 3. エフェクト設定の保存

エフェクトを使ったソングの保存をすると、今のエフェクトの設定が保存されます。

この設定は、ソングをリロード、または選択する時にエフェクトのセッティングを読み込む、読み込まないが選べます。保存されているのは、EFFECTプログラム、PARAMETER、EFFECT RTN、EFFECT ONです。

設定を読み込んだときは、EFFECTセクター、PARAMETER、EFFECT RTNノブの位置に関係なくエフェクト設定が有効になりますが、セクターやノブを動かした時点で、そのセクター、ノブ位置の設定に切り替わります。

# エディット

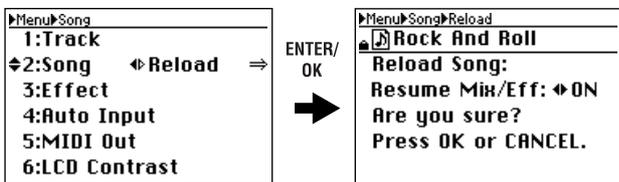
## 1. ソング・エディット

### 1-1. ソングの再読込

カレント・ソングの各種設定(マーク、メトロノームなど)を、最後にセーブされた状態に戻します。このとき、ソングのミキサー設定やエフェクト設定も一緒に読み込むか、読み込まないかが選択できます( p.48付録「ソング・ファイル詳細」)。

録音、Track Copy、Erase で編集したオーディオ・データは元には戻りません。

- MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- カーソル・キー上下で“ 2.SONG ”を選択しカーソル・キー左右を何度か押し“ Reload ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 2 ”を押して“ 2.SONG ”を選ぶこともできます。



- ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Resume Mix/...”の表示が出ます。
- カーソル・キー左右でミキサー、エフェクト設定を読み込むときは“ ON ”を、読み込まないときは“ OFF ”を選び、ENTER/OKキーを押します。

プロテクトがかかっているソングは、読み込まない設定“ OFF ”を選んでも“ ON ”と同じ動作になります。

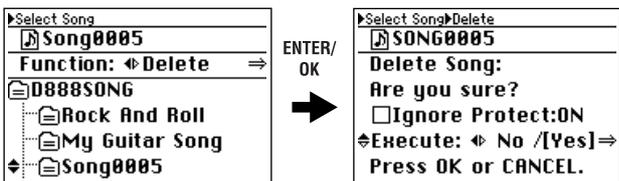
画面には“ Song Reload: Working...”の後、読み込みが終わると“ Song Reload: Completed ”の表示がでます。

- ENTER/OKキーを押して、Menu画面に戻ります。

### 1-2. ソングの削除

不要になったソングを削除します。

- SELECT SONGキーを押し、Select Song画面を表示します。  
ソング・リストがディレクトリー表示され、ページの上部に現在、録音/再生できるソング(カレント・ソング)が表示されます。
- カーソル・キー左右でFUNCTION欄に“ Delete ”を選び、カーソル・キー上下で削除するソングを選びます。
- ENTER/OKキーを押します。  
カレント・ソングに削除するソングが表示され、画面には“ Delete Song : Are you sure? ”の表示が出ます。



- 実行するときは、カーソル・キー左右で“ Execute ”に“ Yes ”を選び、ENTER/OKキーを押すとソング削除を開始します。  
画面には“ Delete Song: Working...”の後、削除が終わると“ Delete Song: Completed ”の表示がでます。

削除するソングにプロテクトがかかっている場合は、削除できません。その場合は、“ Ignore Protect:ON ”のチェック・ボックスにチェックを付けてから削除を行ってください。

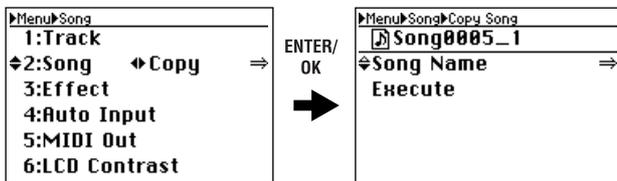
- ENTER/OKキーを押して、Menu画面に戻ります。

カレント・ソングを削除したときは、直後のソングがカレント・ソングに選ばれます。

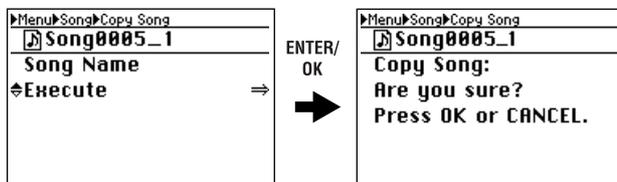
### 1-3. ソングのコピー

現在のソングのコピー(複製)を作ります。同じ曲のミックスやアレンジの違うものを作成するときを使用します。

- コピー元のソングを選びます
- MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- カーソル・キー上下で“ 2.SONG ”を選択しカーソル・キー左右を何度か押し“ Copy ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 2 ”を押して“ 2.SONG ”を選ぶこともできます。
- ENTER/OKキーを押して、Copy Song画面を表示します。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- コピー・ソングの名前を設定するときは、次項「コピー・ソングの名前の設定」を実施後、操作6)に進みます。
- コピー後の新しいソングの名前の変更を設定しない(または、変更済みの)ときは、カーソル・キー上下で“ Execute ”を選びます。



- ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Copy Song: Are you sure? ”の表示が出ます。
- もう一度ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Copy Song: Working...”の後、コピーが終わると“ Copy Song: Completed ”の表示がでます。

コピー後の新しいソングの名前を変えてないときは、自動的にコピー元の名前の最後に1から始まる数字が自動的に付きます。

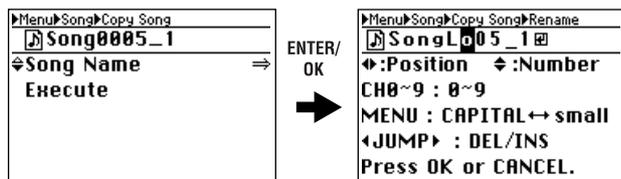
- ENTER/OKキーを押して、Menu画面に戻ります。

ソングが持っている、アンドゥ情報はコピーされません。

## コピー・ソングの名前の設定

ソング名は最大16文字までつけることができます。

- 1) コピー・ソングの新しい名前を設定するときは、カーソル・キー上下で“ Song Name ”を選びます。
- 2) ENTER/OKキーを押し、名前を設定する画面を表示します。
- 3) カーソル・キー左右で変更する文字の位置を選択し、カーソル・キー上下で文字を選びます。  
カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キーを使って数字を直接選ぶことができます。  
大文字、小文字切り替えはMENUキーを押します。  
文字の削除(DEL)、挿入(INS)はJUMPキーを押します。



- 4) 入力した名前を確定する場合はENTER/OKキーを押し、変更を決定して、Copy Song画面に戻ります。  
変更しない場合はEXIT/CANCELキーを押します。

使用できる文字は大文字A～Z、小文字a～z、数字0～9、スペースと下図の記号です。

! # \$ % & ' ( ) + , - . ; = [ ] ^ \_ ` { } ~

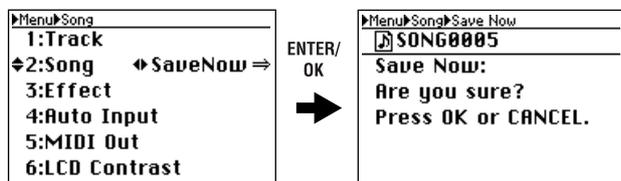
コピーをした後でソングの名前を変更するときは、Menu画面の“ 2: Song ”のRenameで行ってください。( p.21 )

## 1-4.ソングを保存する

本機では、ソング・データや各種パラメーターは、電源のシャットダウン操作時、またはソングの選択時などに自動的に保存されますので、保存のための操作は特に必要ありません。  
しかし、停電や不意の事故により電源が突然供給されなくなった場合には、電源投入後(または、ソング選択後)からの録音/編集のデータは全て保存されません。  
長時間使われる場合や、電源が不安定な環境でお使いの場合には、定期的にソングを保存してください。

**note** USBキーを押して、USBモードに入ったときもソングが自動的に保存されます。

- 1) カーソル・キー上下で“ 2.SONG ”を選択しカーソル・キー左右を何度か押し“ Save Now ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 2 ”を押して“ 2.SONG ”を選ぶこともできます。



- 2) ENTER/OKキーを押すと、“ Save Now: Are you sure? ”が表示されます。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。
- 3) もう一度ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Save Now: Working... ”の後、保存が終わる“ Save Now: Completed ”の表示がでます。
- 4) ENTER/OKキーを押して、Menu画面に戻ります。

**▲** この作業は、ソングが長いほど作業終了(Completed)までの時間が長くなります。

## 1-5.ソングを保護する(プロテクト)

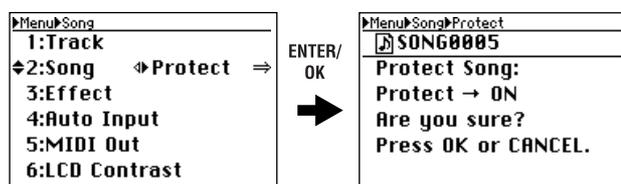
完成したソングに誤って書き込みをしたり、削除しないためにソングの保護を設定します。

保護(プロテクト・オン)されているときは、REC/PLAYキーがオン時にチャンネル・キーを押しても、録音に切り替えることができません。また、そのソングが持つすべてのパラメーターの変更設定の保存が禁止されます。

なお、ソングを保護した時点で、ソングが自動的にセーブされます。保護を解除(プロテクト・オフ)するときも同様の手順で行います。

**note** 保護設定が行えるのは、現在選ばれているカレント・ソングです。

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“ 2.SONG ”を選択しカーソル・キー左右を何度か押し“ Protect ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 2 ”を押して“ 2.SONG ”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Protect画面を表示します。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- 4) 保護設定をしていないソングのときは、“ Protect ON: Are you sure? ”、設定をしているソングのときは、“ Protect OFF: Are you sure? ”が表示されます。
- 5) もう一度ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Protect Song: Working... ”の後、設定が終わる“ Protect Song: Completed ”の表示がでます。
- 6) ENTER/OKキーを押して、Menu画面に戻ります。  
プロテクトがオンのソングには、名前の横に鍵マークが表示されます。

## 2.トラック・エディット

トラック・エディットには、トラックのコピー、トラックの消去、トラックの交換などの編集機能があります。

なお、トラックのコピー、トラックの消去にはロケート・ポイントを登録する必要があります。

**note** ソング・ドライブの空き容量が少ないと、トラック編集が行えないことがあります。不要なトラックやソングの録音データを削除するなどして、トラック編集に必要な空き容量を確保してください。

### 2-1.トラックのコピー(Copy)

指定した範囲( IN からOUT 位置 )のトラック・データを他の位置( TO )にコピーします。

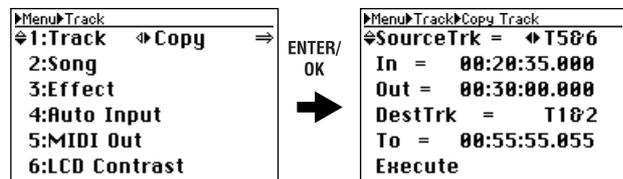
1つのトラックだけでなく、2つのトラック・データを同時にコピーすることができます。

次のような使用例があります。

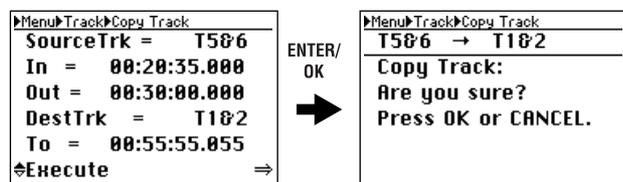
- ・曲の1番をコピーして2番を作成します。
- ・気に入ったフレーズを録音しておき、他のトラックにコピーして使用します。

**▲** コピーの設定をする前に、コピー元( SourceTrk )とコピー先( DestTrk )のバーチャル・トラックを確認してください。

- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下を押し“ 1: Track ”を選択し、カーソル・キー左右を何度か押し“ Copy ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 1 ”を押して“ 1.Track ”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Copy Track画面を表示します。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- 4) カーソル・キー上下で変更するパラメーターを選択し、カーソル・キー左右で設定を選択します。
- 5) In、Out、Toの設定はENTER/OKキーを押してロケートポイントを設定します。  
ロケート・ポイントの設定方法をご覧ください。
- 6) 設定が終わったらカーソル・キー上下で一番下の“ Execute ”を選びます。



- 7) ENTER/OKキーを押すと、“ Copy Track: Are you sure? ”が表示されます。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してCopy Track画面に戻ります。
- 8) もう一度ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Copy Track: Working... ”の後、保存が終わる“ Copy Track: Completed ”の表示がでます。
- 9) ENTER/OKキーを押すとCopy Track画面に、Menuキーを押すとMenu画面に戻ります。

### 設定パラメーター

SourceTrk (コピー元トラック)	T1...T8、T1&T2...T7&T8
In (コピー元開始位置)	任意のロケーション
Out (コピー元終了位置)	任意のロケーション *但し、In<Out
DestTrk (コピー先トラック)	T1...T8、T1&T2...T7&T8
To (コピー先開始位置)	任意のロケーション

- ▲** コピーされた位置にあるトラック・データは上書きされます。
- ▲** この作業はトラックの長さが長いほど、作業終了までの時間がかかります。
- ▲** “ SourceTrk ”のトラック数と同じトラック数の“ DestTrk ”を指定してください。
- ▲** 編集をやり直したいときは、アンドゥで実行前の状態に戻すことができます( p.41 )。
- note** To位置から再生し編集が正しく行われたかを確認してください。

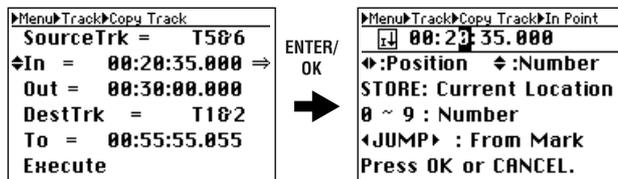
### ロケート・ポイントの設定方法

ロケート・ポイントを設定するのにポイント設定画面のとき数値で入力する方法と、前もってマークを登録してそれを使う方法があります。

**note** マークを選択後、数値を入力し直して微調整することもできます。

#### 数値で入力

- 1) カーソル・キー上下を押し“ In = .... ”(または“ Out = .... ”、“ To = .... ”)を選択し、ENTER/OKキーを押してポイント設定画面を表示します。
- 2) カーソル・キー左右で設定する桁を選択し、カーソル・キー上下で数字を選びます。  
カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キーを使って数字を直接選ぶことができます。  
このときSTOREキーを押すと、現在位置をポイントに設定できます。



- 3) ポイントの入力が終わったら、ENTER/OKキーを押して決定します。

#### マークを使う

- 1) カーソル・キー上下を押し“ In = .... ”(または“ Out = .... ”、“ To = .... ”)を選択し、ENTER/OKキーを押してポイント設定画面を表示します。
- 2) JUMPキーを押して、希望するロケート・ポイントが登録してあるマークを選びます。  
「数値で入力」の操作2)でロケート・ポイントを微調整することもできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して決定します。

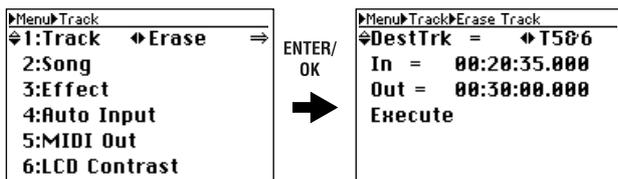
## 2-2. トラックの消去(Erase)

指定した範囲(INからOUT)のトラック・データを消去します。消去すると、その区間の元のデータは空白になります。OUT位置以降にあったデータは前に移動しません。

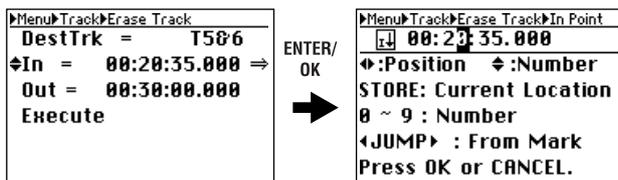
・2つのトラックのINからOUT区間を消去することもできます。

▲ 消去の設定をする前に、消去(DestTrk)するトラックのパーチャル・トラックを確認してください。

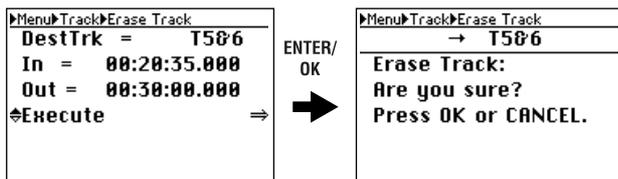
- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下を押し“ 1: Track ”を選択し、カーソル・キー左右を何度か押し“ Erase ”を選択します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 1 ”を押して“ 1.Track ”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Erase Track画面を表示します。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- 4) カーソル・キー上下で変更するパラメーターを選択し、カーソル・キー左右で設定を選択します。
- 5) In, Outの設定はENTER/OKキーを押しロケートポイントを設定します。ロケート・ポイントの設定方法をご覧ください。



- 6) 設定が終わったらカーソル・キー上下で一番下の“ Execute ”を選びます。



- 7) ENTER/OKキーを押すと、“ Erase Track: Are you sure? ”が表示されます。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してErase Track画面に戻ります。
- 8) もう一度ENTER/OKキーを押します。画面には“ Erase Track: Working... ”の後、保存が終わると“ Erase Track: Completed ”の表示がでます。
- 9) ENTER/OKキーを押すとErase Track画面に、Menuキーを押すとMenu画面に戻ります。

設定パラメーター

DestTrk(消去トラック)	T1...T8、T1&T2...T7&T8
In(消去開始位置)	任意のロケーション
Out(消去終了位置)	任意のロケーション *但し、In<Out

▲ この作業はトラックの長さが長いほど、作業終了までの時間がかかります。

▲ 消去を取り消したいときは、アンドゥで実行前の状態に戻すことができます( p.41 )。

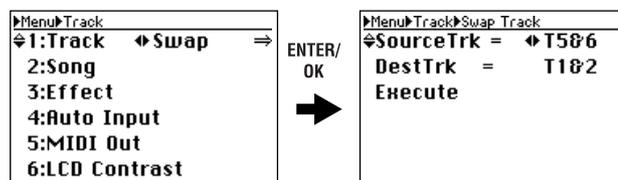
▲ In位置から再生し編集が正しく行われたかを確認してください。

## 2-3. トラックの交換(Swap)

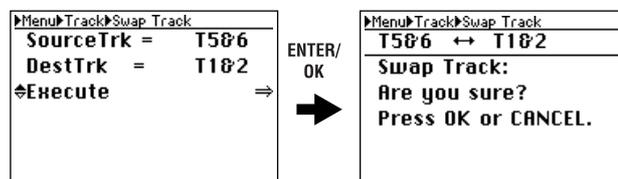
指定したチャンネルのトラック・データを、他のチャンネルのトラック・データと交換(スワップ)します。

▲ トラックの交換設定をする前に、交換元(SourceTrk)と交換先(DestTrk)のパーチャル・トラックを確認してください。

- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下を押し“ 1: Track ”を選択し、カーソル・キー左右を何度か押し“ Swap ”を選択します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 1 ”を押して“ 1.Track ”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Swap Track画面を表示します。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- 4) カーソル・キー上下で変更するパラメーターを選択し、カーソル・キー左右で設定を選択します。
- 5) 設定が終わったらカーソル・キー上下で一番下の“ Execute ”を選びます。



- 6) ENTER/OKキーを押すと、“ Swap Track: Are you sure? ”が表示されます。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してSwap Track画面に戻ります。
- 7) もう一度ENTER/OKキーを押します。画面には“ Swap Track: Working... ”の後、保存が終わると“ Swap Track: Completed ”の表示がでます。
- 8) ENTER/OKキーを押すとSwap Track画面に、Menuキーを押すとMenu画面に戻ります。

設定パラメーター

SourceTrk(交換元トラック)	T1...T8、T1&T2...T7&T8
DestTrk(交換先トラック)	T1...T8、T1&T2...T7&T8

▲ 編集をやり直したいときは、アンドゥで実行前の状態に戻すことができます( p.41 )。

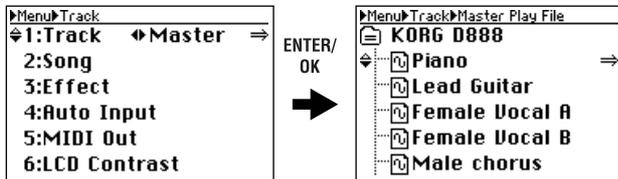
▲ 交換したトラックを再生し、編集が正しく行われたかを確認してください。

## 2-4. マスター・トラック・ファイルの選択(Master)

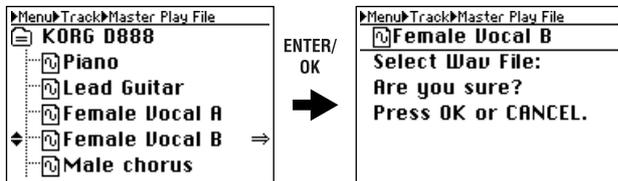
マスター・トラックには、最後にマスター録音をした演奏(WAVファイル)が選ばれていますが、それ以前のマスター録音の演奏を選択して再生することができます。

また、USBモードで取り込んだWAVファイルを選択して再生することができます。但し、選択できるファイルはカレント・ソングと同じフォルダ内のWAVファイル(44.1kHz/16bit、ステレオのみ)が対象になります。

- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下を押し“ 1: Track ”を選択し、カーソル・キー左右を何度か押し“ Master ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 1 ”を押して“ 1.Track ”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Master Play File画面を表示します。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- 4) カーソル・キー上下でWAVファイルを選択します
- 5) ENTER/OKキーを押すと、“ Select Wav File: Are you sure? ”が表示されます。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMaster Play File画面に戻ります。



- 6) もう一度ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Select Wav File: Working... ”の後、保存が終わると“ Select Wav File: Completed ”の表示がでます。
- 7) ENTER/OKキーを押すとMenu画面に戻ります。

選択できるWAVファイルは44.1kHz/16bit、ステレオだけです。そのほかのフォーマットのファイルを読み込もうとするとエラー表示が表示されます。エラーが表示されたときはENTER/OKキーを押してMaster Play File画面に戻ります。

## 2-5. チャンネル・トラック・ファイルの選択(VTrack)

各チャンネル・トラックに割り当てるファイルを選択します。

バーチャル・トラック(VT1~VT8)以外にも、マスター・トラックのWAVファイルやUSBモードで取り込んだWAVファイルを選択することができます。但し、選択できるファイルはカレント・ソングと同じフォルダ内のWAVファイル(44.1kHz/16bit、ステレオのみ)が対象になります。

### バーチャル・トラックの選択

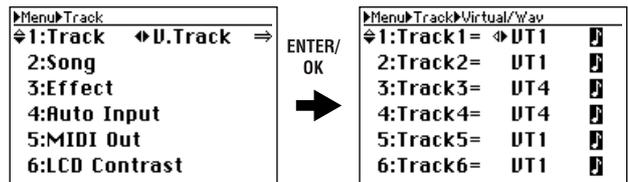
26ページ「1-1.バーチャル・トラックの選択」をご覧ください。

### WAVファイルの選択

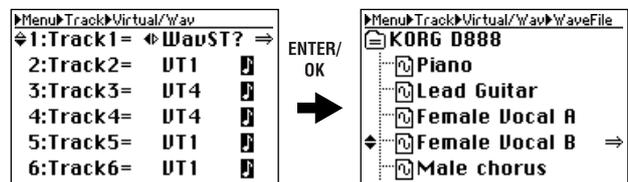
⚠ WAVファイルを選択したトラックには、録音や編集をすることができません。録音や編集をするためには、バーチャル・トラック(VT1~VT8)を選び直してください。

⚠ 選択できるWAVファイルはステレオのため、選んだトラックと隣り合ったトラック(1-2、3-4、5-6、7-8)に、ファイルが割り当てられます。

- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“ 1.Track ”を選択しカーソル・キー左右を何度か押し“ V.Track ”を選択します。  
このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 1 ”を押して“ 1.Track ”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Virtual/Wav画面を表示します。



- 4) カーソル・キー上下でWAVファイルを割り当てるトラックを選択し、カーソル・キー左右で“ WavST? ”を選択します。  
このとき、選択するトラックはカーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー1~8を押して選ぶこともできます。  
すでにWAVファイルが選択されているトラックのファイルの変更をするときはそのファイル名を選択すると“ ? ”マークが表示されます。
- 5) ENTER/OKキーを押して、WaveFile画面を表示します。
- 6) カーソル・キー上下でWAVファイルを選択します。



- 7) ENTER/OKキーを押すと、“ Select Wav File: Are you sure? ”が表示されます。  
やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してVirtual/Wav画面に戻ります。
- 8) もう一度ENTER/OKキーを押します。  
画面には“ Select Wav File: Working... ”の後、保存が終わると“ Select Wav File: Completed ”の表示がでます。

⚠ 選択されたWAVファイルはステレオのため1-2、3-4、5-6、7-8がそれぞれL-Rチャンネルになります。

- 9) ENTER/OKキーを押して、Virtual/Wav画面に戻ります。
- 10) 変更をすべて確定し“？”マークが表示されていないVirtual/Wav画面になったらEXIT/CANCELキー(またはMenuキー)を押し、Menu画面にもどります。

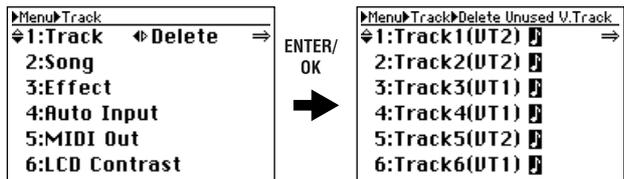
## 2-6. トラック・データの削除 (Delete)

現在選択している以外のチャンネル・トラック1から8のバーチャル・トラックのデータやマスター・トラックに選択されている以外のWAVファイルを削除することができます。不要になったデータを削除することにより、ハードディスクの空き(残り録音可能時間)を増やすことができます。

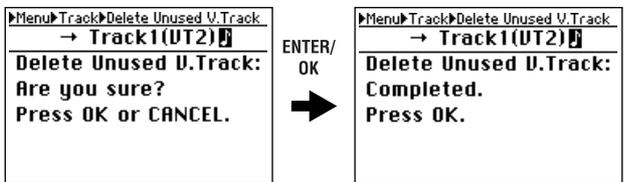
**▲** 削除にマスター・トラックを選んだ場合は、マスター・トラックのいずれにも割り当てられていないWAVファイルがすべて削除されます。

**▲** この操作はアンドゥでやり直すことができません。必要なトラック・データを削除しないように注意してください。

- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下を押し“1: Track”を選択し、カーソル・キー左右を何度か押し“Delete”を選択します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“1”を押して“1.Track”を選ぶこともできます。
- 3) ENTER/OKキーを押して、Delete Unused V.Track画面を表示します。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



- 4) カーソル・キー上下でバーチャル・トラックのデータを削除するトラックやマスター・トラックを選択します。このとき、選択するトラックはカーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー1~8、MASTERキーを押して選ぶこともできます。
- 5) ENTER/OKキーを押すと、“Delete Unused V.Track: Are you sure?”が表示されます。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押してDelete Unused V.Track画面に戻ります。



- 6) もう一度ENTER/OKキーを押します。“Delete Unused V.Track: Working...”の表示後、削除が終わるとDelete Unused V.Track画面に戻ります。

**note** 選んだトラックに現在使用中のバーチャル・トラックにしかデータがない場合は、エラー表示が出ますので、ENTER/OKキーを押してDelete Unused V.Track画面に戻ります。

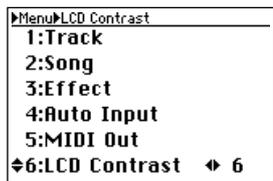
- 7) トラックのデータの削除が終わったらEXIT/CANCELキー(またはMenuキー)を押してMenu画面に戻ります。

## その他

### 1. コントラスト調整

ディスプレイが見にくい場合はコントラスト調整を行ってください

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“6.LCD Contrast”を選択します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“6”を押して“6.LCD Contrast”を選ぶこともできます。
- 3) カーソル・キー左右を押してコントラストの値を変更します。このとき、値を変更すると値の後に“？”マークが付きます。やめるときは、EXIT/CANCELキーを押すと“？”が消えて元の値のコントラストに戻ります。



- 4) ENTER/OKキーを押します。値の後の“？”が消えて設定した値のコントラストになります。

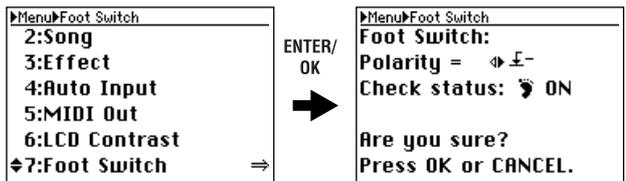
### 2. フット・スイッチを使う

パンチ・インとパンチ・アウトを切り替えるマニュアル・パンチ録音のときに、フット・スイッチ(KORG PS-1ペダル・スイッチ推奨:別売)が使用できます。フット・スイッチはFOOT SW端子に接続してください。このとき、極性の設定を行ってください。

**note** KORG PS-1ペダル・スイッチ(別売)を使用するときは極性設定は不要です(工場出荷時)。

#### フット・スイッチの極性設定

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“7.Foot Switch”を選択し、ENTER/OKキーを押します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“7”を押して“7.Foot Switch”を選ぶこともできます。
- 3) 使用するフットスイッチをFOOT SW端子に接続します。
- 4) カーソル・キー左右で極性を切り替えます。
- 5) ペダルを踏んだときに“Check status”がONになる極性を選びます。



- 6) 設定を変更するときはENTER/OKキーを押すと確定しMenu画面に戻ります。変更しないときは、EXIT/CANCELキーを押すと元の設定のまま戻ります。

### 3. アンドゥ、リドゥ

UNDO、REDO LEDが点灯しているときは、操作の取り直し、取り直しのやり直しができます。なお、アンドゥ、リドゥが行えるのは、一つ前までの操作です。

アンドゥ、リドゥが行える操作は、下記の通りです。

- ・チャンネル・トラック録音( p.27 )
- ・オーバー・ダビング録音( p.27 )
- ・バウンス録音( p.27 )
- ・トラックのコピー( p.37 )
- ・トラックの消去( p.38 )
- ・トラックの交換( p.38 )

なお、Song Select、Reload、Protectやマスター・トラック録音を行うとアンドゥ、リドゥのデータは消去( UNDO、REDO LED消灯 )されます。

**note** 録音時間が長いソングの場合、録音してから最初にUNDOキーを押したときだけ、処理時間が長くなる場合があります。

#### 操作例

・トラックのコピーをします。

- 1) トラックのコピーを行います( p.37「2-1. トラックのコピー(Copy)」)。
- 2) UNDO LEDが点灯します。
- 3) UNDO/REDOキーを押します。
- 4) UNDO LEDが消灯し、REDO LEDが点灯します。
- 5) トラックのコピーが取り消されます。

このように、アンドゥは前の操作を取り消しできますが、さらにリドゥを行うと取り直しをやり直せます。

・取り消したトラックのコピーを復活します。

- 1) REDO LEDが点灯しているのを確認します。
- 2) UNDO/REDOキーを押します。
- 3) REDO LEDが消灯し、UNDO LEDが点灯します。
- 4) UNDOを行う前の状態に戻ります。

REDO LEDが点灯している時に、新たな操作をすると、REDO LEDが消灯し、UNDO LEDが点灯します。アンドゥは一つ前の操作が取り消せますが、リドゥはアンドゥを行った時のみ、操作をやり直します。

### 4. ドライブのフォーマット

本機のハードディスク・ドライブをフォーマットします。ドライブに保存したデータをすべて消去したいとき、「Drive Error occurred.」が頻繁に表示されるようになったときに行います。

フォーマットを実行するとディスク内のデータがすべて消去されますので、必ず内容を確認してから、必要なデータはバックアップをとった後で実行してください( 次項「5. コンピューターとの連携」)。

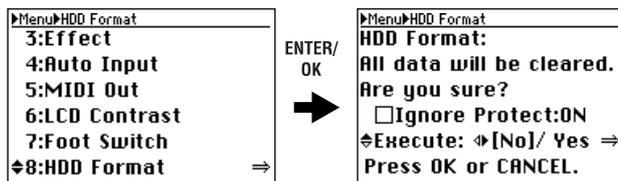
**note** フォーマット中に電源が切れるなどの不慮の事故が発生した場合、本機が正常に動作しなくなる可能性があります。

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で「8.HDD Format」を選択します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー「8」を押して「8.HDD Format」を選ぶこともできます。

3) ENTER/OKキーを押します。

画面には「HDD Format :All Data..... Are you sure?」の表示が出ます。

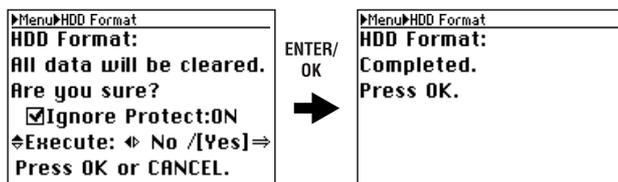
フォーマットを止めるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。



4) フォーマットを実行するときは、カーソル・キー左右で「Execute」に「Yes」を選び、もう一度ENTER/OKキーを押します。

画面には「HDD Format: Working...」の後、フォーマットが終わると「HDD Format: Completed」の表示ができます。

**!** 本機のハードディスク内のソングに1曲でもプロテクトがかかっている場合は、フォーマットできません。その場合は、「Ignore Protect:ON」のチェック・ボックスにチェックを付けてからフォーマットを行ってください。



5) ENTER/OKキーを押して、Menu画面に戻ります。

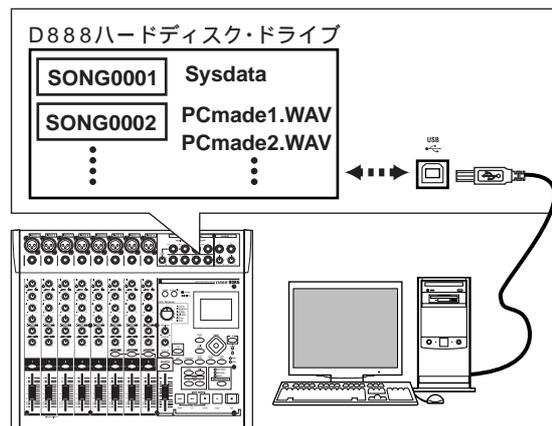
### 5. コンピューターとの連携

**!** 本機に外部ハードディスク、CD-R/RWDドライブ等のUSB周辺機器を接続することはできません。

本機はUSB端子を搭載しており、直接コンピューターと接続することで、ハードディスクのデータをコンピューターへ保存したり、コンピューターから本機のハードディスクにデータを書き込みすることができます。

コンピューターと接続してUSBモードに入ること、下記の操作ができます。

- ・トラック・データ(WAV)のコンピューターへのコピー
- ・コンピューターから本機へのWAVファイルのコピー
- ・フォルダ、ファイルの名前の変更(一部制限あり)
- ・データのバックアップ
- ・システムのバージョンアップ
- ・コンピューターの外付けドライブとしての使用
- ・ハードディスクのデフラグ



レベル・メーター

ソング、ロケーション

ミキサー

録音(基本)

録音(応用)

再生

オペレーション

エフェクト

エディット

その他

## 5-1. USBモード

**note** USBケーブルでコンピューターと接続したまま電源を入れると、オープニング画面を表示した後すぐにUSBモードに入ります。

### Windowsの場合(Windows Me/2000以降)

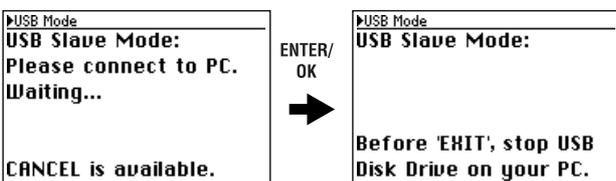
**note** コンピューターの画面はご使用になる環境によって異なります。本書の記載は、WindowsXPの画面です。

1) USBケーブルでコンピューターと接続します。  
コンピューターと接続したUSBケーブルのコネクタを本機のUSB端子に接続します。コネクタの向きに注意し奥まで確実に差し込みます。

 コンピューターの電源はあらかじめ起動しておいてください。

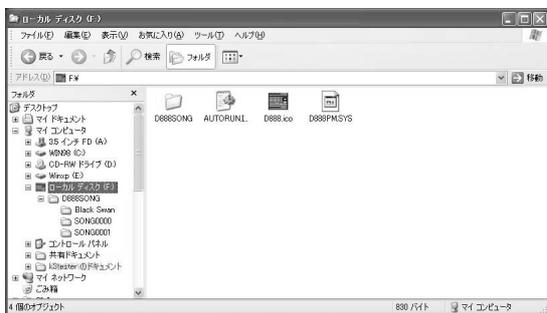
2) USBキーを押し、USB画面を表示します。

 この画面を表示しているときに、USBケーブルの接続を外したり、コンピューターの電源をオン/オフしないでください。



3) コンピューターに「ローカルディスク(\*)」というドライブが追加されます。

**note** 初めて本機を接続した場合は、デバイス・ドライバのインストールが行われます。



4) コンピューターにデータを保存します。  
3)で追加された「ローカルディスク(\*)」を開くと、本機のハードディスクの内容が表示されます。  
必要なデータをコンピューター上にコピーします。また、コンピューター上にコピーしておいたデータを本機のハードディスクに書き込むことも可能です。

5) コンピューターから本機を外します。  
コンピューターのタスクバー右側に表示されている  アイコンを左クリックします。  
表示されたメニューから「USB大容量記憶装置デバイス(ドライブ名)の停止」を左クリックします。  
「USB大容量記憶装置デバイス」は安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたことを確認します。



6) USBキーを押すか、USBケーブルを抜くと元の画面に戻ります。

**note** USBケーブルでコンピューターと接続したままにしておくと、本機の電源オン時にUSB画面が表示されUSBモードに入ります。

 WindowsMeの場合は、「USB大容量記憶装置デバイス」は「USBディスク」と表示されます。

### Macintoshの場合(Mac OS9.0.4以降)

1) USBケーブルでコンピューターと接続します。  
コンピューターと接続したUSBケーブルのコネクタを本機のUSB端子に接続します。コネクタの向きに注意し奥まで確実に差し込みます。

2) USBキーを押し、USB画面を表示します。

 この画面を表示しているときに、USBケーブルの接続を外したり、コンピューターの電源をオン/オフしないでください。

3) コンピューターに「名称未設定」というドライブが追加されます。

**note** 初めて本機を接続した場合は、デバイス・ドライバのインストールが行われます。

4) コンピューターにデータを保存します。  
3)で追加された「名称未設定」を開くと、本機のハードディスクの内容が表示されます。  
必要なデータをコンピューター上にコピーします。また、コンピューター上にコピーしておいたデータを本機のハードディスクに書き込むことも可能です。

5) 追加されたドライブを「ごみ箱」に捨てます。  
本機を外すときは、デスクトップ上のドライブを「ごみ箱」に捨てるか、「ファイル」メニューの「片付ける」を選択します。

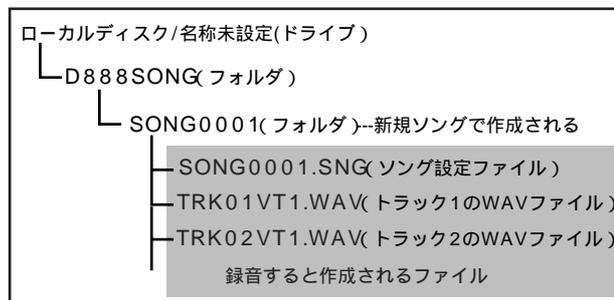
6) USBキーを押すか、USBケーブルを抜くと元の画面に戻ります。

**note** USBケーブルでコンピューターと接続したままにしておくと、本機の電源オン時にUSB画面が表示されUSBモードに入ります。

## 5-2. 使用可能なファイル

本機のドライブはコンピューターからは「ローカルディスク(\*)」(または「名称未設定」という外付けドライブとして認識されます。このディスク内には、D888SONGというフォルダがあります。このフォルダ内には、ソングごとのフォルダが作られます。

ソング・フォルダ内には、演奏データ・ファイル(WAVファイル)やソング設定ファイルがあります。



これらのフォルダやファイルは、必要に応じてコンピューターにコピーをしてバックアップを取ることができます。

また、本機のファイル条件に合わせて作成したWAVファイルをコンピューターからコピーしたり、コンピューターを使ってフォルダやファイルの名前の変更などが行えます。

本機で認識や使用できるファイルの条件、階層などは47ページ「ファイル詳細」をご覧ください。

## 6. MIDIでの同期

MIDIとは( Musical Instrument Digital Interface )の略で、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

### 6-1. MIDIの接続

MIDI情報を送信するには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを本機のMIDI端子と情報を送る外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。

MIDI OUT端子

本機からMIDIメッセージを送ります。外部機器のMIDI IN 端子と接続します。

### 6-2. 本機で扱うMIDIメッセージ

本機はMTC( MIDI Time Code )を送信し、外部シーケンサー、レコーダーと同期をとって動作させることができます。フレーム・レートは30fps、MTCフォーマットは30NDFです。

 本機はマスターとして使用できますが、スレーブにはできません。

#### MIDIインプリメンテーションチャートについて

MIDI機器の取扱説明書には、MIDIインプリメンテーションチャートが付属しています。このチャートは、送受信できるMIDIメッセージについて確認できるようになっています。MIDI機器を使うときには、相互のMIDIインプリメンテーションチャートを比較し、対応しているMIDIメッセージを確認してください。

詳細なMIDIの仕様については、別冊のMIDIインプリメンテーションに記載されています。MIDIインプリメンテーションの配布については、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

### 6-3. MIDI同期設定

外部MIDI機器と同期する、しないを選びます。同期を行わないときは、誤動作をさけるため“ OFF ”を選んでください。

- 1) MENUキーを押し、Menu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下で“ 5. MIDI Out ”を選択します。このとき、カーソル・キー上下を使わずに、チャンネル・キー“ 5 ”を押して“ 5. MIDI Out ”を選ぶこともできます。
- 3) カーソル・キー左右で“ ON ”、“ OFF ”を切り替えます。現在の設定と違う場合は“ ? ”がつかます。



- 4) 設定を変更するときはENTER/OKキーを押すと確定します。変更しないときは、EXIT/CANCELキーを押すと元の設定に戻ります。

## 7. システム・バージョン・アップ

### 7-1. システム・ファイルのダウンロード

最新のシステム・ファイルは、コルグ・ホームページ( <http://www.korg.co.jp> )からコンピューターにダウンロードすることができます。詳しい手順については、コルグ・ホームページをご確認ください。

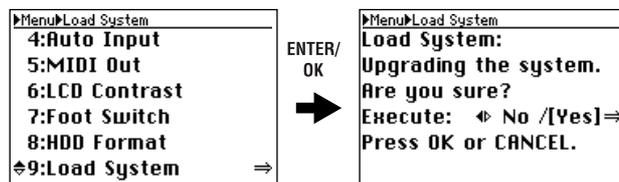
#### バージョン・アップの準備

USBケーブルで本機とコンピューターを接続(42ページ「5-1. USBモード」参照)し、ダウンロードしたシステム・ファイルの本機のハードディスクのKORG D888のルート上(またはフォルダ)にコピーします。

### 7-2. バージョン・アップ手順

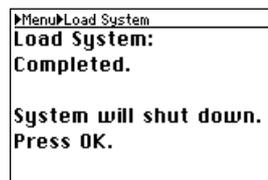
システムのロード中に電源がオフになるなどの不慮の事故が発生した場合、本機が正常に動作しなくなる可能性があります。この場合はコルグお客様相談窓口にご相談ください。

- 1) MENUキーを押しMenu画面を表示します。
- 2) カーソル・キー上下を押し“ Load System ”を選択します。
- 3) ENTER/OKキーを押します。画面には“ Load System : Are you sure? ”の表示が出ます。



システム・ロードを止めるときは、EXIT/CANCELキーを押してMenu画面に戻ります。

- 4) システム・ロードを実行するときは、カーソル・キー左右で“ Execute ”に“ Yes ”を選び、もう一度ENTER/OKキーを押します。画面には“ System Load: Working...”が表示され、システム・ロードが始まります。
- 5) システム・ロードが終了すると、“ System will shut down. Press OK. ”が表示されます。



- 6) ENTER/OKキーを押します。本機がシャットダウンしてスタンバイ状態になります( STANDBY LED点灯 )。
- 7) ONキーを押して、電源オンにします。ロードを行ったシステムで再起動します

 バージョン・アップに失敗するとメッセージが表示されます。メッセージの内容を確認してください( p.45「各種のメッセージ」)。

# 付録

## 故障とお思いになる前に

### 電源が入らない

電源コードがコンセントに接続されていますか?( p.6 )  
リア・パネルのPOWER ON(主電源)スイッチがオンになっていますか?( p.6 )

### ディスプレイに何も表示されない

トップ・パネルのオン・キーが点灯していますか?( p.6, 11 )  
コントラストの調整はできていますか?( p.40 )

### ディスプレイに縦線が入っている

表示内容によって、ディスプレイに縦線が表れることがあります。故障ではありません。  
画面が見にくい場合は、コントラストの調整を行ってください( p.40 )。

### 音が出ない

本機および接続している機器の電源がオフになっていませんか?( p.7 )  
MASTERフェーダーまたは、モニターLEVELノブ、PHONESのレベル・ノブの値が下がっていませんか?  
各チャンネルの音量レベルが下がっていませんか?

### 再生音が聞こえない、小さい

REC/PLAYキーがオンでチャンネル・キーが再生になっているトラックがありますか?( p.10 )  
CH ONキーがオンでチャンネル・キーがオンになっていますか?( p.10 )

### 入力した音が聞こえない、小さい

TRIMノブが適正なレベルまで上がっていますか?  
音声が入力されているかを確認してください。  
LEVEL METERキーを押してLevel Meter画面にします。  
EXIT/CANCELキーを押して入力のレベル・メーター表示にして、音声が入力されていることを確認します( p.16, 20 )。  
REC/PLAYキーがオンでチャンネル・キーが録音になっていますか?( p.10 )  
モニターの設定は適切ですか?  
CH ONキーがオンでチャンネル・キーがオンになっていますか?( p.10 )  
オート・インプットがオンになっていませんか?( p.20, 31 )  
再生時にオート・インプットがオンのときは入力音は聞こえません。

### ヘッドホンから聞こえないチャンネルがある

OUTPUT ASSIGNキーがINDIVIDUAL(キー消灯)になっていませんか?  
INDIVIDUALのとき、ヘッドホンにはチャンネル1と2の音声しか聞こえません。  
OUTPUT ASSIGNキーを押してMST/MON(キー点灯)にしてください。

### 録音できない

録音先トラックのREC/PLAYキーが録音になっていますか?  
CH ONキーがオンになっていますか?( p.10 )  
ソングのプロテクトがオンになっていませんか?( p.20, 36 )  
ディスク容量が不足していませんか?  
カウンター表示を“FreeTime”にして、録音可能な時間を確認してください。( p.20 )  
バックアップしたソングや不要なソングを消去して、ディスクの空き容量を増やしてください。( p.35 )  
REC/PLAY MODEが適正ですか?( p.29 )

### 入力音または録音した音にノイズやひずみが多い

TRIMノブが適正ですか?  
TRIMノブの値が大きすぎると音がひずみ、小さすぎるとノイズが多くなります。  
LEVEL METERキーを押してLevel Meter画面にします。  
EXIT/CANCELキーを押して入力のレベル・メーター表示にして、INPUT 1~INPUT 8のTRIMノブでメータのクリップ・マークが点灯しない範囲で、できるだけ大きい値になるように調整することによって適正値が得られます。  
エフェクトを使用していないですか?  
エフェクトの中には歪みやノイズを加えるエフェクトがあります。エフェクトを使用しない状態で、歪みやノイズがないことを確認してください。  
エフェクトの出力がひずむ場合、以下の調整をします。  
各チャンネル・トラックのEFFECTノブでエフェクト・レベルを下げる。  
EFFECT RTNノブでエフェクト・リターンを下げる。  
EQでひずむ場合、以下の調整をします。  
EQのゲイン値を調整します( p.25 )。

### エフェクトがかからない

EFFECT ONキーがオンになっていますか?  
各チャンネルのEFFECTノブの設定が“0”または“0”付近になっていませんか?  
エフェクトを使用するチャンネルのセンド・レベル(EFFECTノブ)を上げてください。  
EFFECT RTNノブの設定が“0”または“0”付近になっていませんか?  
マスター・トラックに送るエフェクト・リターン・レベル(EFFECT RTNノブ)を上げてください。

## メトロノーム

### メトロノーム音が出ない

METRONOMEキーがオフ(消灯)になっていませんか?  
Metronome画面の“ Use Metronome ”にチェックを付けてください。

Metronome画面の“ Volume ”の値が下がっていませんか  
レコーダーが停止していませんか?  
PLAYキーを押して再生してください。メトロノームはレコーダーが録音/再生中に鳴ります。

### メトロノーム音がマスターから出力される

Metronome画面の“ Assign ”の設定が“ MST&MON ”になっていませんか?  
“ Assign ”の設定を“ MONITOR ”にしてください。

## キーを押しても機能しない

再生/録音などのレコーダーが動作している間は、キーが効かないものがあります。  
停止した後、操作してください。

設定画面になっていませんか?  
ENTER/OK、EXIT/CANCELキーなどを押して画面を移ってください。

## MIDI

### MIDIシーケンサーが同期しない/MIDIコントロールができない

MIDIケーブルが正しく接続されていますか?( p.12、43 )  
MIDIケーブルが断線していませんか?

### MTCで同期できない

MTCの設定がオフになっていませんか?  
MIDIシーケンサーの同期に関する設定は適正ですか?  
MIDIシーケンサーの「取扱説明書」を参照してください。

## 音声ファイル

### 再生できない

音声ファイルのフォーマットは対応しているものですか?( p.47 )

## USB

### コンピューター側が本機を認識しない

USBケーブルが正しく接続されていますか?( p.12 )  
本機はUSBモードになっていますか?( p.42 )  
Macintoshの一部機種と、OSの特定バージョンの組み合わせで認識しないことがあります。その場合には、一度D888をシャットダウンし、USBケーブルを接続したままD888の電源を入れて下さい。

### コンピューターから取り外すときにエラーが出た

正しい手順で取り外していますか?( p.42 )

### 接続時にソフトウェアやデバイス・ドライバのインストールを要求される

お使いのコンピューターのOSのバージョンは、本機に対応したものですか?( p.42 )

# 各種のメッセージ

メッセージ・ダイアログは、ENTER/OKキーを押すと消えます。

### Blank track.

Swap Trackの対象となっているトラックにデータがありません。

### Canceled.

ユーザー操作により実行がキャンセルされました。

### Cannot execute.

現在この操作を行うことはできません。

### Check Sum Error.

システムのロードに失敗しました。  
初めからもう一度やり直してください。再度表示される場合には、お客様相談窓口にお問合せください。

### Completed.

実行を正常に終了しました。

### Disk too busy.

パンチ・イン・アウト録音やトラック編集を行うことによって、細かいデータが作られ、ドライブへアクセスが遅くなったときに表示されます。

USBモードでコンピューターに接続してドライブの最適化を行ってください。

▲ スタジオ等での重低音による振動で“ Disk too busy. ”が発生する場合があります。この場合はドライブの最適化を実行する前に、本体の設置場所を変えるなどして回避してください。

### Drive Error.

ドライブのアクセス中にエラーが発生しました。  
USBモードでコンピューターに接続してチェック・ドライブを行ってください。  
チェック・ドライブを実行してもエラー・メッセージが表示される場合は、ドライブのフォーマットを行ってください。

### Drive Full.

ドライブの残量が足りません。  
不要なバーチャルトラックを消去するか、不要なソングを削除してください。

### Failed to write System File.

システム・バージョンアップに失敗しました。  
故障の可能性があります。お客様相談窓口にお問い合わせください。

### IN - OUT Error.

トラック編集やループ再生などのために設定したINとOUT位置に誤りがあり、実行できません。  
IN位置とOUT位置が等しいか、IN位置より前にOUT位置があります。  
Erase TrackでIN位置がTrackの最後より後にあります。

### Memory Full.

マークの登録が100個を超えました。登録できません。  
不要マークを削除してから、登録を行ってください。

故障とお思いに  
なる前に

各種の  
メッセージ

ファイル詳細

仕様

ブロック・  
ダイアグラム

索引

機能一覧表

付録

No REC tracks.

録音に設定しているトラックがありません。

Not supported file.

サポートされていないファイル形式です。  
扱えるWAVファイルの形式を確認してください。

Please enter name.

ソング名がありません(スペースのみの名前)。  
ソング名を正しく入力(1つ以上の文字、数字、記号)してください。

Protected Song.

ソングがプロテクト・オンになっているので、実行できません。  
ソングのプロテクトをオフにしてください。

Song Error.

ソング・データにエラーがあり、ソングの選択ができません。  
選択できないソングを削除してください。

Song Name Error Delete illegal folder.

同じソング名が存在します。  
ソング名を変更してください。または、USBモードでソングと同名のディレクトリを削除して下さい。

System File Error.

“Load System”に必要なシステムファイルがないか、ファイルの長さが合いません。  
システムファイルを確認してセーブし直してください。

Time Limit.

連続録音時間は6時間までです。これ以上連続して録音できません。  
トラック編集を行うと、ソングの終了位置がソングの範囲を越えてしまいます。  
ソングの範囲は05:59:59.999までです。

You can't edit wav track.

WAVファイルがアサインされているトラックはエディットできません。

## 確認メッセージ

Info :

ユーザーに伝える情報がある場合に表示されます。  
ENTER/OKキーを押して、操作を続けてください。

## 重大なエラー・メッセージ

Fatal :

本体の不具合、故障などの場合に表示されます。  
このようなメッセージが出るときは、“ ”の文章をメモした上で、お客様相談窓口にお問い合わせください。

# ファイル詳細

## 本機ハードディスクの構成

USBモードで接続したとき本機のハードディスクはローカルディスク(または名称未設定)というドライブとして認識されます。コンピューターから本機ハードディスク内のフォルダ/ファイルのコピー、移動、削除、名前の変更を行うことができます。

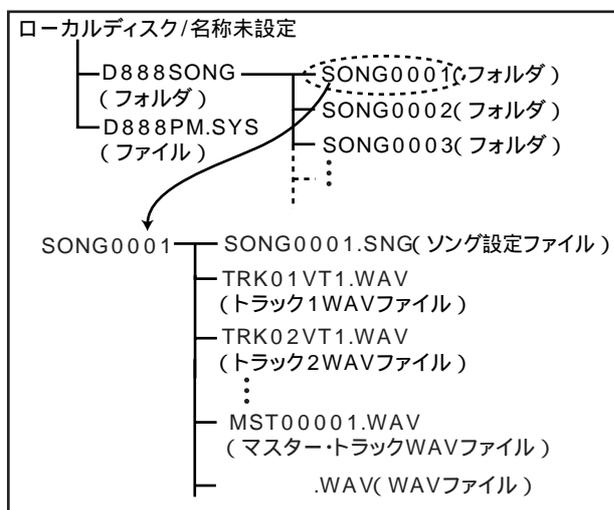
対応ファイル	可能操作
WAVファイル	コピー、移動、削除、名前の変更
ソング設定ファイル	コピー、名前の変更

### 対応形式

ファイル・システムFAT32形式、ロング・ファイル・ネーム対応、2バイト文字(日本語など)非対応

本機ハードディスク内は以下のような構成になっています。

### フォルダ/ファイル構成



#### D888SONGフォルダ

ソング・データのフォルダです。この中にハードディスクの残り容量の許す限りソング・フォルダを作ることができます。本機で認識できるのはこのフォルダ内のデータのみになります。

#### D888PM.SYS

システムで使用する設定ファイルです。必ず1つだけ必要なファイルです。移動、削除はしないで下さい。

#### SONG0001フォルダ(ソング・フォルダ)

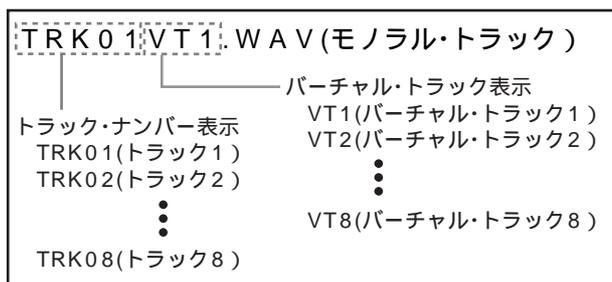
作成したソング毎にできるフォルダです。新規ソングを作ると、SONG0001から順番に作られます。本機でソング名を変更すると、フォルダ内のソング設定ファイルの名前も自動的に変更されます。

**▲** USBモードで接続したコンピューターでソング・フォルダ名を変更したときは、そのフォルダ内のソング設定ファイル(\*\*\*.SNG)を必ずしも同名にする必要はありません。

#### ソング・フォルダ内のファイル

SONG0001.SNG(ソング設定ファイル)  
ソング毎に固有な設定(ミキサー、エフェクト、録音設定など)の本機独自のファイルです。拡張子(.SNG)が付いたファイルは、ソング・フォルダに1つだけしか入れることができません。ソング設定ファイル名は変更しても構いませんが、2つ以上存在する場合は誤動作するおそれがありますので避けてください。

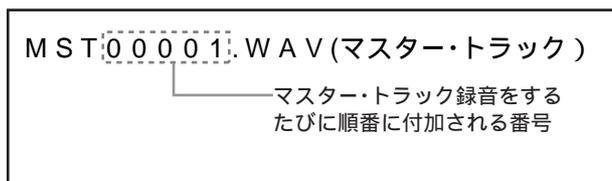
TRK01VT1.WAV(トラックWAVファイル)  
各トラックのオーディオ・ファイルです。拡張子(.WAV)より前の部分のファイル名は録音した時点で自動的に下記のようになります。



USBモードで接続したコンピューターでファイル名を変更することはできませんが、そのときは、トラック・ファイルとして認識できなくなり、元々そのファイルが割り当てられていたトラックは空になります。

**note** 自動的につけられたこのトラック・ファイル名のルールに合わせてファイル名を変更すると、トラック及びバーチャル・トラックを変更できます。

MST00001.WAV(マスター・トラックWAVファイル)  
マスター・トラック録音をするたびに生成されるステレオのWAVファイルです。ファイル名はMST+数字(録音回数)になります。



**note** WAVファイルはハードディスクの残り容量が許す限りいくつでも作れますが、本機から認識できるのは100個までです。

.WAV(WAVファイル)  
16bit/44.1kHzのオーディオ・ファイルです。「WAVファイルの選択」で各トラックの演奏データとして使うことができます。

**note** 本機に取り込むWAVファイルは、はっきりと識別できるよう、マスター・トラックWAVファイルと同様な名前(MST+数字.WAV)は使用しないでください。

## 本機で使用できるWAVファイルについて

本機でWAVファイルの選択に使用できるのは、ステレオのWAVファイルだけです。モノラルのWAVファイルは認識することはできませんが、選択時にエラー表示になります。このようなことを避けるため、ソング・フォルダ内に取り込んでおくWAVファイルはステレオのみにしてください。

**note** 本機で自動的につけられるトラックWAVファイル名にコンピューター上で変更しておく、トラックのバーチャル・トラック・データとしてモノラルのWAVファイルを使用することができます。

本機で表示できるWAVファイル名の最大の長さは16文字までですが、画面によっては8文字程度になる場合があります。また、17文字以上のファイル名のWAVファイルでも認識できますが、画面で簡単に識別できる短めのファイル名を付けることを推奨します。

# ソング・ファイル詳細

本機は、ソング毎に有効な設定とすべてのソングで共通の設定があります。

なお、モニター・LEVELノブ、ヘッドホン・レベル・ノブ、TRIMノブの値は記憶できません。その都度調整してください。

また、アンドゥ/リドゥの情報はシャットダウン、ソングの選択、リロードを行うとなくなります。

## ソング共通で記憶している設定

- ・ LEVEL METER設定( カウンター表示、ピーク・ホールド・タイム、チャンネル/インプット・レベル・メーター )
- ・ ファンタム電源設定
- ・ 出力アサイン設定
- ・ オート・インプット設定
- ・ MTC Out設定
- ・ LCDコントラスト
- ・ フットスイッチ極性設定
- ・ メトロノーム( Assign )
- ・ Resume設定
- ・ 最後に選択されていたソング

## ソングごとに記憶している設定

### ソングの選択、リロード時に必ず読み込まれる設定

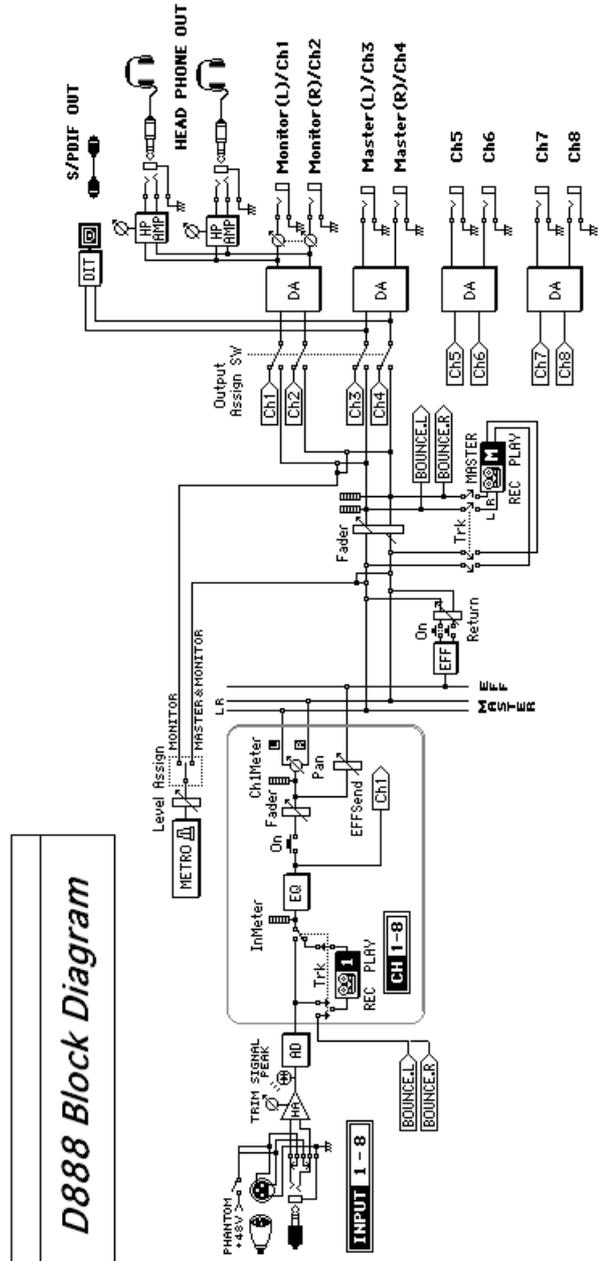
- ・ ソング名
- ・ パーチャル・トラック設定
- ・ チャンネル・キー( REC/PLAY、BOUNCE、CH ON )
- ・ マスター・トラック設定
- ・ REC/PLAY MODE 設定
- ・ マーク・ポイント
- ・ メトロノーム( オン/オフ、テンポ、拍子、音量 )

### ソングの選択、リロード時に読み込まなくできる設定( Resume機能 )

- ・ チャンネル・レベル
- ・ マスター・レベル
- ・ EQゲイン
- ・ エフェクト・センド
- ・ パン
- ・ エフェクト設定  
( オン/オフ、プログラム、パラメーター、エフェクト・リターン )

⚠ この設定を読み込んだときは、パネルのフェーダーやノブの位置と設定値が一致しません。そのフェーダーやノブを動かした時点で現在の位置の値になります( ジャンプ動作 )。

# ブロック・ダイアグラム



## デモ・ソング

Song: Black Swan  
Band: Uncrowned  
(c)2005 Uncrowned Music, BMI

website: [www.uncrowned.com](http://www.uncrowned.com)

Recorded at Sonica, Atlanta GA

Edited & Assembled by Huston Singletary  
[www.hustonmusic.com](http://www.hustonmusic.com)

# 仕様

使用温度条件 : +5 ~ +35度(結露させないこと)

## 主要各部

### レコーダー部

- トラック数 : 64+マスター・トラック\*  
(バーチャル・トラック含む)  
: 同時再生8トラック、同時録音8トラック  
\*ステレオWAVファイル用、トラック数はハードディスク残容量に依存
- 録音フォーマット : 44.1kHz/16bit 非圧縮
- 録音時間 : 最大124時間 40Gバイト・ハードディスク使用時  
: 連続最長6時間まで
- ソング数 : 最大100ソング
- マーク・ポイント : 1ソングにつき100ポイント(マーク名なし)
- USB機能 : パソコンにUSB2.0で接続、  
FAT32USB外部ドライブとして使用可
- トラック編集 : コピー(オーバー・ライト)、イレース、スワップ、  
WAVファイルのトラックへのアサイン
- ソング編集 : プロテクト、コピー、デリート、リネーム、  
セーブ・ナウ
- メトロノーム : ♩ = 40 ~ 240、拍子 = 0、2、3、4、6、8

### MIDI機能

MTC送信 : フレーム・レート30fps、フォーマット30NDF

### ミキサー部

- 構成 : 8チャンネル入力(8バス)、モニター×1、  
マスター×1、内部エフェクト・センド×1
- 信号処理 : 40bit、44.1kHz
- イコライザー : HIGH (Fc:10kHz、G:±15dB)  
MID (Fc:2.5kHz、G:±15dB)  
LOW (Fc:100Hz、G:±15dB)

### エフェクト部

- 構成 : マスター×1
- 信号処理 : 40bit、44.1kHz
- プログラム数 : 11
- 一般
- ディスプレイ : 160×104ドット、バックライト付きLCD
- 電源 : AC100V
- 消費電力 : 32W
- 外形寸法 : 375mm(W)×331mm(D)×110mm(H)
- 重量 : 4.4kg

## 主要規格

- 周波数特性 : 10Hz ~ 20kHz +1dB / -2dB
- S/N : 96dB(標準) @IHF-A
- THD+N : 0.03%(標準) 20Hz ~ 20kHz
- A/D変換 : 24bit 64倍オーバー・サンプリング
- D/A変換 : 24bit 128倍オーバー・サンプリング
- サンプリング周波数 : 44.1kHz
- 記録/再生ビット : 16bit

## アナログ・デジタル入出力規格

[ ]内は出力アサインがINDIVIDUAL時

### INPUT 1 - 8

コネクター : XLR-3-31タイプ(+48Vファンタム電源、SW付)、6.3mmTRSフォン・ジャック(平衡)

入力インピーダンス : 4k /XLR-3-31時、10k /TRSフォン時

規定レベル : -60dBu ~ +4dBu @TRIM=max. ~ min.

最大レベル : -48dBu ~ +16dBu @TRIM=max. ~ min.

ソース・インピーダンス : 600

### MONITOR OUTPUT L/R [CH1、2]

コネクター : 6.3mmフォン・ジャック(不平衡)

出力インピーダンス : 500

規定レベル : -10dBu

最大レベル : +2dBu

負荷インピーダンス : 10k 以上

### MASTER OUTPUT L/R [CH3、4]

コネクター : 6.3mmフォン・ジャック(不平衡)

出力インピーダンス : 500

規定レベル : -10dBu

最大レベル : +2dBu

負荷インピーダンス : 10k 以上

### CH 5 - 8 [CH5 - 8]

コネクター : 6.3mmフォン・ジャック(不平衡)

出力インピーダンス : 500

規定レベル : -10dBu

最大レベル : +2dBu

負荷インピーダンス : 10k 以上

### PHONES

コネクター : 6.3mmステレオ・フォン・ジャック×2

出力インピーダンス : 100

最大レベル : 50mW + 50mW@32

### S/P DIF OUTPUT

コネクター : オプティカル

フォーマット : 24bit S/P DIF(IEC60958)

### USB

コネクター : タイプB

フォーマット : USB2.0 High-Speedデバイス  
USBマストレージクラス

対応OS : Windows Me/2000以降、Mac OS9.0.4以降

\* Windows98でご使用になる方は、コルグ・ホームページ、またはお客様相談窓口でご確認ください

### MIDI OUT

コネクター : DIN5ピン

### FOOT SW

コネクター : 6.3mmフォン・ジャック(別売PS-1使用)

## 付属品

: 電源コード、取扱説明書

## 別売オプション

: PS-1 ペダル・スイッチ

・その他推奨品については、コルグ・ホームページ等を参照してください。

製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。  
(2006年2月現在)

故障とお思いに  
なる前に

各種の  
メッセージ

ファイル詳細

仕様

ブロック・  
ダイアグラム

索引

機能一覧表

付録

# 索引

ア		セ		移動	23
値の設定	13	接続	7, 14	削除	23
新しいソング	15	ソ		登録	23
アンドゥ	41	操作	13	マスタリング	18
イ		ソング		マック	42
イコライザー	16, 25	コピー	35	マニュアル・パンチ	29
移動		再読込	35	ミ	
マーク	22	削除	35	ミキサー構成図	19
ロケーション	22	新規	15, 21	ミックス・ダウン	18
ウ		選択	21	MIDI	43
ウィンドウズ	42	名前	21	ミュート	25
エ		保護	36	メ	
エフェクト	33, 44	保存	19, 36	メトロノーム	25, 44
オ		チ		モ	
オート・インプット	20, 31	チャンネル出力	25	モード画面	13
オート・パンチ	29	テ		モード・キー	12
オーバー・ダビング	17	定位	16, 25	リ	
音量調整	25	ディスプレイ	44	リドゥ	41
カ		ディスプレイ表示	20	リネーム	21
カーソル・キー	13	デジタル出力	25	リハーサル機能	31
カウンター	20	デモ・ソング	15, 48	リピート	20
キ		ト		レ	
記憶している設定	48	同期	43	レベル・メーター	20
コ		トラック		ロ	
故障	44	交換	38	録音	44
コピー		コピー	37	オーバー・ダビング	17, 27
ソング	35	消去	38	基本	15
トラック	37	データの削除	40	自動切り替え	31
コントラスト	40	ナ		種類	26
コンピューター	41	名前	21	チャンネル・トラック	15, 27
サ		ニ		バウンス	27
再生	44	入出力規格	49	パンチ・イン・アウト	29
基本	16	入力	9, 16, 24, 44	マスター・トラック	18, 28
種類	32	入力レベル	24	リハーサル	31
チャンネル・トラック	32	ハ		リピート	30
マスター・トラック	32	バーチャル・トラック	26	ロケーション	22
リピート	32	バックアップ	42	ロケート・ポイントの設定	30, 37
削除		パラメーターの選択	13	ワ	
ソング	35	パン	16, 25	WAVファイルの割り当て	39
トラック・データ	40	ヒ		E	
シ		ピーク・ホールド	20	EQ	16, 25
システム・バージョン・アップ	43	フ		L	
シャットダウン	7	ファンタム電源	11	LCD表示	20
出力		フォーマット	41	M	
音声	24	フット・スイッチ	40	MIDI	43, 45
チャンネル	25	プロテクト	20	U	
デジタル	25	ホ		USB	45
仕様	49	保存		USBモード	42
使用可能なファイル	42	エフェクト	34	W	
消音	25	ソング	19, 36	WAVファイル	39, 47
ス		マ			
スペック	49	マーク			
スワップ・トラック	38				

ファンクション...		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	× ×	× ×	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	× × *****	× ×	
ノート ナンバー :	音域	× *****	×	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	× ×	× ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	0-111	×	×	
プログラム チェンジ :	設定可能範囲	× *****	× *****	
エクスクルーシブ			×	MENUのMTC Out設定が ON のとき、 MTCフルメッセージを送信する。
コモン	:クォーター・フレーム :ソング・ポジション :ソング・セレクト :チューン	× ×	× × × ×	MENUのMTC Out設定が ON のとき送信する。
リアル タイム	:クロック :コマンド	× ×	× ×	
その他	:ローカルON/OFF :オールノートオフ :アクティブセンシング :リセット	× × × ×	× × × ×	
備考				

モード1 : オムニ・オン、ポリ      モード2 : オムニ・オン、モノ      ○ : あり  
 モード3 : オムニ・オフ、ポリ      モード4 : オムニ・オフ、モノ      × : なし

MIDI IMPLEMENTATIONの配布については、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

## アフターサービス

### 保証書

本製品には、保証書が添付されています。  
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。  
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

### 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

### 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。  
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

### 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

### 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。  
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

### 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

### ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。  
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

### WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan.  
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

## 株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1

明正大井5号営業所コルグ物流センター内 TEL 03(3799)9085

**KORG** 株式会社コルグ

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.co.jp/>